

平成25・26年度 文部科学省委託事業

道徳教育総合支援事業 実践報告書

研究主題

自他のよさを認め、自ら判断し、
よりよく生きようとする生徒の育成
— 自己決定を導く資料提示や発問の工夫を通して —



高山村立高山中学校

〒377-0702 群馬県吾妻郡高山村大字中山 3750 番地 1
TEL 0279-63-2002 FAX 0279-63-2950
<http://www5.kannet.ne.jp/~takayamachu/>

は じ め に

平成25年度、26年度の2年間、高山村は文部科学省より道德教育総合支援事業の委託を受け、本校がその中心校となって道德教育の研究を進めてきました。

道德教育は人格形成をめざす大切な教育です。今日の子どもたちは、基本的生活習慣の乱れ、学ぶ意欲の低下、社会性の低下、規範意識の希薄化、そしていじめ問題など、多くの課題を抱えています。現行の学習指導要領では、改訂の柱の一つに道德教育の充実があり、道德の時間は学校教育全体を通じて行う道德教育の要として、その役割が重要視されています。これらを踏まえ、学校という集団生活の場としての機能を生かした道德教育の充実を図る必要があります。

まず、本校では生徒の実態と課題を明確にし、「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」を研究主題として掲げました。そして、様々な生き方や他者の考えを知り、よりよく道德的実践力を培うためには、道德の時間の充実を図る中で生徒が自分の考えをもち表現できることが重要であることを全職員が確認し研究に取り組んできました。

年間指導計画に位置付けるための資料選定に時間をかけ、指導案は共同立案しました。指導案の検討では、ねらいを踏まえた中心発問の検討を徹底的に行い、補助発問や板書の工夫にも多くの時間をかけました。発問の精選と工夫、生徒の考える時間の確保、様々な課題の克服を目指し、教師が生徒役になっての模擬授業を何度も積み重ね、授業改善に取り組んできました。十分な検討を行っての研究授業でしたが、50分という限られた時間で授業のねらいを達成することの難しさを強く感じています。

研修主任と道德教育推進教師が研究推進の中心となり道德の授業づくりを目指した中で、何より全職員が熱心に研究協議をして授業を創り上げることができたことが誇りです。道德の時間の授業づくりの研究が、ほかの教科指導でも話し合い活動の在り方や道德教育を意識した授業づくりなどに生かされ、教師の連携と資質の向上を図ることができました。また、生徒会活動などでも変化が現れてきました。生徒が自主的に今の生活を見直し、生活習慣の改善やいじめ防止の呼びかけ、生徒会新聞の発行など、よりよい学校生活を目指して、取組が始まっています。

また、時を同じくして、本村では幼保小中の12年間を見据えた一貫教育を目指し、昨年度から具体的な取組が始まりました。この研究が一貫教育の様々な活動と連携する中で、「心豊かな高山の子」の育成に貢献できることも目指しています。

しかしながら、まだまだ実践途上の研究です。不十分な点、手の届かなかったところがたくさんあります。今後も授業研究を続けていく意向でおります。この発表を機に皆様から貴重なご意見やご指導をいただき、より充実した実践へとつなげていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、多くの皆様に御世話になりました。金沢工業大学教授の白木みどり先生には、お忙しい中にもかかわらず、何度も来校して熱心に御指導をいただきました。また、群馬県教育委員会義務教育課、吾妻教育事務所、及び高山村教育委員会の皆様、さらには、前東京福祉大学教授の小林靖能先生をはじめ、関係各位に心よりお礼申し上げます。

高山村立高山中学校

校長 菅谷 礼示

目 次

はじめに

I	研究の概要	1
II	実践報告	
1	学校の概要	2
2	研究主題	
3	研究主題の設定理由	
4	研究のねらい	
5	研究の全体構想図	3
6	研究の経過及び今後の計画	
7	研究内容	5
(1)	校内の指導体制の工夫	
①	道徳教育推進教師と研修主任の役割分担と協力	
②	全教師が力を発揮できる推進体制	
(2)	効果的な資料選定と指導計画の整備	6
(3)	道徳の時間の指導の工夫	
①	道徳の時間の位置付け（補充・深化・統合）	8
②	指導観をもつ	
③	道徳的価値の自覚を深めるための工夫	10
④	発問の工夫	11
⑤	効果的な資料提示の工夫	14
⑥	意見交流の場の設定	
⑦	評価の工夫	15
(4)	模擬授業の実施と授業研究会	
①	事例1 集団生活の向上「むかで競走」（平成26年 7月 1年）	16
②	事例2 謙虚に他に学ぶ「あいつの一言」（平成26年 7月 2年）	20
(5)	学校教育全体を通して行う道徳教育	
①	教科指導における道徳教育	24
②	体験活動を生かした道徳教育	27
(6)	家庭・地域との連携	
①	講演会の実施	29
②	家庭・地域への啓発	
III	授業実践事例	
H25	授業実践事例1 思いやりを行動に「旗」（平成25年 9月 1年）	31
H25	授業実践事例2 人間の心の美しさ「足袋の季節」（平成25年12月 3年）	34
H25	授業実践事例3 思いやる心「地図のある手紙」（平成26年 1月 2年）	38
H26	授業実践事例1 かけがえない生命を精一杯生きる「キミばあちゃんの櫓」（平成26年 6月 3年）	42
H26	授業実践事例2 自立する力「自立をたすけた手紙」（平成26年 9月 2年）	46
IV	研究のまとめ	
1	研究の成果	51
(1)	生徒の変容 ～諸調査および教師の観察結果から～	
(2)	生徒の変容と取組の有効性 ～生徒の感想から～	53
(3)	教師の意識の変容	56
2	今後の課題	57
	おわりに	
	参考資料	

I

研究の概要

I 研究の概要

1 効果的な資料選定と指導計画の整備

- 本校の生徒の実態から一層伸ばしたい道徳性として、「向上心・個性の伸長」「役割と責任の自覚・集団生活の向上」と、いじめの未然防止の観点から「人間愛・思いやりの心」「生命尊重」を重点指導内容項目として位置付けた。
- 副読本や読み物資料集を当たり、本校生徒が道徳的価値をとらえる上で効果的と思われる資料を選定した。生徒の生活の実態から、生徒の心をとらえるもの（感動を覚える、葛藤するなど）を、内容項目ごとに複数の資料を読み比べて選定した。
- これまでの道徳教育の全体計画を見直し、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などと道徳教育とのかかわりを明らかにするために道徳教育の全体計画別葉を作成し、年間指導計画を整備した。

2 授業改善（効果的な資料提示と発問の工夫）

- 学級のどの生徒も資料に描かれている道徳的価値を理解し、適切な道徳的価値に基づいて自己の生き方を主体的に考え、思いを表現できる（これを「自己決定」と呼ぶ）よう、「効果的な資料提示」と「発問の工夫」を道徳の授業改善の柱とした。
- 「発問の工夫」として、指導観（価値観・生徒観・資料観）を明確にし、資料に描かれた道徳的価値を正しく理解させるための中心発問を吟味した。そして、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせ、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うためにはどのような発問をすることが適切なのかを検討し、発問を構成した。
- 道徳的価値の理解を深めるために、視覚・聴覚に訴える効果的な資料提示の仕方（資料として読み物資料の他、場面絵・ワークシート・板書などを含む）を探った。

3 体験活動を生かした道徳教育の推進と家庭・地域との連携

- これまでに行われてきた異校種間交流（幼稚園・小学校・高校）、地域の人材を生かした体験活動（花・光・芸術プロジェクト、尾瀬学校や職場体験などの学校行事）と道徳の内容項目とのかかわりを明らかにした。（道徳教育の全体計画別葉①）
- 活動後の思いをポートフォリオに綴らせ、その記述から生徒の心の変容を見取るとともに、道徳ファイルに保管し、価値への意識付けや生徒が自分の考えを振り返る場で活用した。
- 保護者・地域へ向けて授業公開や講演会（「命を育む講座」など）を行い、学級通信や学校だより、道徳教育啓発リーフレットを通して本校の道徳教育の様子を知らせた。

4 研究成果

- 様々な資料を読み比べて道徳年間指導計画を整備し、道徳教育の全体計画別葉を作成したことで、道徳の時間の指導はもちろん、日々の教科指導においても指導者が道徳の内容項目を意識するようになった。道徳の時間の指導に当たっては、補充・深化・統合のいずれの視点で授業を行うべきかを考えるようになった。
- 発問を練り、場面絵やワークシート、板書などを工夫して授業を行ったことにより、道徳的価値や自分の生き方についてワークシートに自分の考えを書いたり、少人数グループの中で意見を発表したりすることができる生徒が増えてきた。
- 体験活動後の感想には、感動した思いや御世話になった方々への感謝の気持ちが綴られており、それぞれに望ましい道徳性が育っている。
- 「思いやり」「生命尊重」を学校の重点指導内容項目とし、道徳の時間と、講演会や生徒会活動の両面からいじめの未然防止に取り組んだことで、生徒に命の大切さを再認識させ、「いじめを許してはならない」という思いを涵養することができた。

Ⅱ

実践報告

Ⅱ 実践報告

1 学校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数
たかやまそんりつたかやまちゅうがっこう 高山村立高山中学校	吾妻郡高山村中山3750-1	0279-63-2002	1 1 5 人

2 研究主題

自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成
ー自己決定を導く資料提示や発問の工夫を通してー

3 研究主題の設定理由

本校は、自然環境に恵まれた中山間地域に位置し、祖父母と同居の三世帯家庭が多い。高山村の基本行政方針である「明るく かしこく たくましく」を受け、「心身ともに健康で、高い知性・豊かな感性・たくましい意思と創造力をもち、郷土を愛し、人間性豊かな生徒を育成する」を学校教育目標として掲げている。

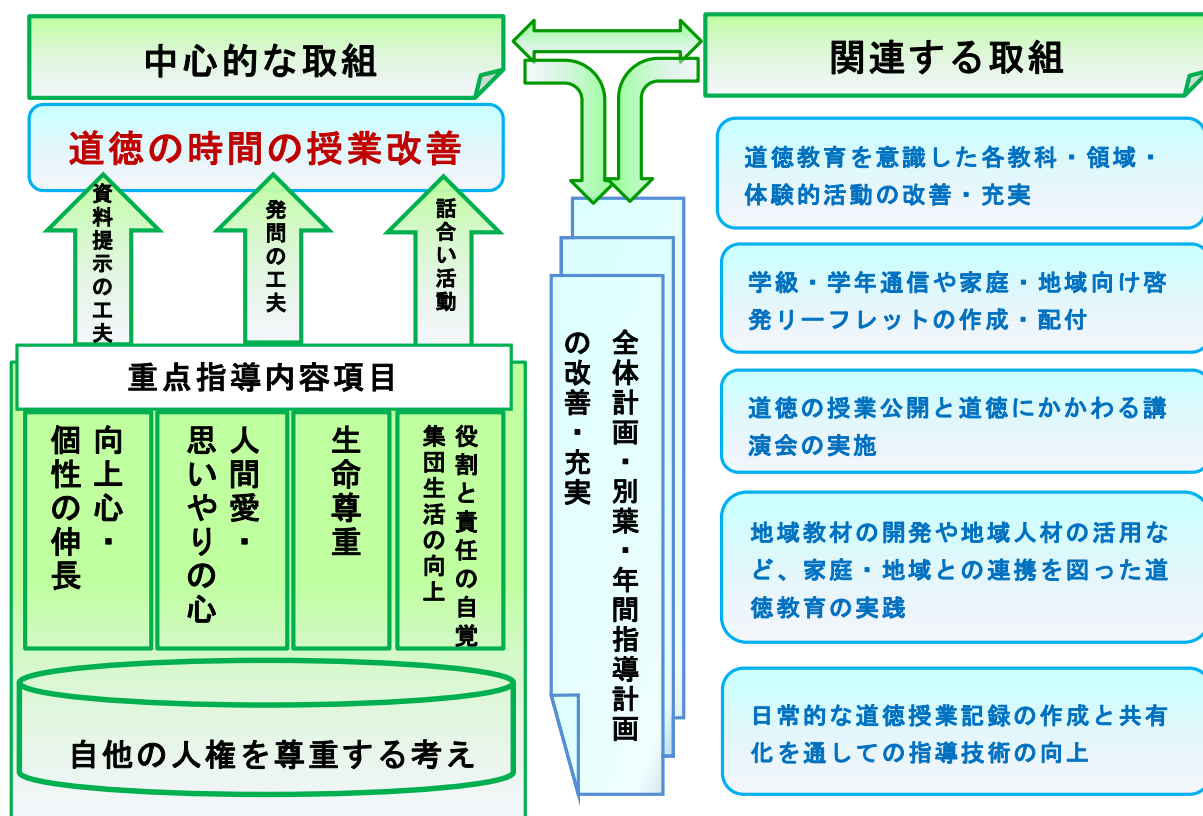
生徒は、純朴かつ真面目であり、落ち着いた態度で日々の学習や学校行事、部活動などに取り組んでいる。教科の学習や道徳の時間における生徒の様子を観察すると、道徳的心情と判断力は望ましい傾向にあるが、実践意欲や態度などの道徳性は十分に身に付いているまでには至っていない。内容項目で見ると、「自分自身に関すること」では、心身の健康の増進については望ましい傾向にあるものの、生活習慣やより高い目標を掲げて粘り強く努力しようとする態度に欠ける面が見られる。「他の人とかかわりに関すること」では、思いやりの心や信頼・友情を大事にしている生徒が多く、友達関係は良好と思われるが、礼儀や時と場に応じた言動については課題が残る。幼稚園・小学校・中学校がそれぞれ1校（園）という高山村で義務教育を終えるまで同じ集団で育つ本校生徒は、男女の区別なく親しくすることができる。一方、長い付き合いの中で互いの見方や交友関係が固定化されているように思われる面もある。自分に自信をもてない生徒が多く、多様なものの見方や相手の立場を尊重する姿勢、謙虚に学ぶ姿勢について、向上が望まれる。「自然や崇高なものとかかわりに関すること」では、自然愛護や美しいものに感動する心は備えているが、人間のもつ弱さ・醜さを克服する強さや気高さについての認識は高くない。「集団や社会とかかわりに関すること」では、法や決まりの遵守、学級や学校における集団生活の向上についての意識は高いが、勤労の尊さを知り、家族の一員としての役割を果たそうとする意識は弱い。

このような実態から、本校生徒がこれからの自分の人生を切り拓く力を身に付ける上で大切なのは、自分のよさに気づき、自己をより肯定的に受け止められるようにすること、先人や友達など他から学び、自己の生き方に照らし合わせてこれからの生き方を考えていくことであると考えた。そこで、効果的な資料提示の仕方や発問構成を工夫するなど道徳の時間の指導を改善・充実させていく取組を推進することにより、よりよく道徳的实践力の育成を図ることができると考え、本研究主題を設定した。

4 研究のねらい

生徒の実態や発達の段階を踏まえ、生徒の道徳的实践力を育成するために効果的な資料を選定し、その提示の仕方や発問構成を工夫するなど、道徳の時間の指導の改善を図ることで、資料に描かれている道徳的価値を理解させ、自己の生き方を振り返って道徳的価値に基づいた人間としてのよりよい生き方についての自覚が深められるようにする。

5 研究の全体構想図



6 研究の経過と今後の計画

H25年度の研究

全 体 研 修 会					
月	回	主な研修内容	月	回	主な研修内容
4. 22	①	研究主題の検討	11. 18	⑪	模擬授業及び指導案検討(3年)
5. 2	②	授業参観における道徳授業公開	11. 25	⑫	指導案検討とリーフレット作り
5. 7	③	研究主題の決定	12. 3	⑬	指導案検討と副読本の選定
5. 20	④	学校・学年の重点指導項目の決定	12. 9	⑭	第2回指導主事要請訪問 第3学年 3-(3) 「足袋の季節」
5. 27	⑤	資料の選考	12. 16	⑮	25年度の成果と指導案検討(2年)
5. 28	⑥	指導主事計画訪問における道徳授業公開	12. 24	⑯	26年度年間指導計画の作成(研修推進委員会)
6. 3	⑦	資料の選定	1. 20	⑰	模擬授業(2年)と指導案検討
6. 24	⑧	道徳教育指導者養成研修(筑波)伝達	1. 27	⑱	第3回指導主事要請訪問 第2学年 2-(2) 「地図のある手紙」
7. 1	⑨	全体計画別業作り	2. 10	⑲	道徳授業公開 白木みどり先生講話
7. 25	⑩	全体計画別業作り	2. 24	⑳	全体計画別業の確認と指導案形式
8. 26	⑪	道徳研修会報告と指導案検討	3. 10	㉑	道徳意識調査結果の分析と今年度の反省
9. 3	⑫	第1回指導主事要請訪問 第1学年 2-(2) 「旗」			
11. 7	⑬	「命を育む講座」実施 講師:鈴木せい子先生			
11. 8	⑭	授業参観における道徳授業公開			

先進校視察・研修会参加

のべ17名参加

月	回	主な研修内容	月	回	主な研修内容
6. 4 ～ 8	1	道徳教育指導者養成研修(筑波) / 1 名	10. 24	6	中学校道徳教育研究協議会（総合教育センター）/ 1 名
7. 3	2	高崎市夏季特別講座～道徳の授業 づくりにおけるポイント/ 2 名	10. 24	7	地区別人権教育研究協議会（長野原町立北軽井沢小）/ 1 名
8. 9	3	道徳授業パワーアップセミナー （東京学芸大）/ 2 名	11. 8	8	関東甲信越中学校道徳教育研究 大会（笠懸南中学校）/ 1 名
9. 20	4	群大附属中公開研究会/ 2 名	1. 21	9	人権教育推進協力校研究発表会 （区立池之上小学校）/ 2 名
10. 18	5	基礎・基本習得のための実践研 究事業（赤城北中学校）/ 2 名	1. 31	10	台東区教育委員会研究協力校研究発表 会（区立御徒町台東中学校）/ 3 名

H26年度の研究

全 体 研 修 会					
月	回	主な研修内容	月	回	主な研修内容
4. 7		26年度の研究の方向性と指導 案形式（研修推進委員会）	7. 23	⑪	第3回指導主事要請訪問 第2学年 2-(5)「あいつの一言」模擬授業 白木みどり教授講話
4. 7	①	26年度の研究の方針と生徒の 実態把握	7. 25	⑫	道徳授業の組立と指導案の作り方
4. 21	②	道徳教育の全体計画及び諸計画 の見直しと校内研究組織の改編	8. 25	⑬	7月道徳意識調査の分析と掲示 物作成
4. 23		授業参観における道徳授業公開	9. 4		一人1授業 1年音楽科 「オリジナルケチャ」 4-(4)
4. 28	③	26年度年間指導計画の修正	9. 8		公開授業及び指導案検討
5. 14		一人1授業 3年社会科 世界 恐慌と日本の中国侵略 4-(2) (10)	9. 22	⑭	第4回指導主事要請訪問 第2学年 1-(3)「自立をたすけた手紙」 文部科学省 澤田調査官講話
5. 19	④	道徳意識調査（4月）の分析	9. 29	⑮	模擬授業及び指導案検討
5. 26	⑤	道徳意識調査（4月）の分析	10. 20	⑯	模擬授業及び指導案検討
5. 29	⑥	指導主事計画訪問における道徳 授業公開	11. 4	⑰	発表準備
6. 2	⑦	道徳教育指導者養成研修(筑波) 伝達	11. 14		道徳教育総合支援事業発表会
6. 9		一人1授業 2年理科 化学変化 とその利用 1-(4) 2-(5)	11. 17	⑱	11. 14 の反省と授業研究会
6. 23	⑧	模擬授業及び指導案検討	12. 2		JAXA 講演会「はやぶさプロジェク ト」仮題 講師：上杉邦憲名誉教授
6. 30	⑨	第1回指導主事要請訪問 第3学年 3-(1)「キミばあちゃんの椿」	12. 8	⑲	研究紀要の原稿のまとめ方
7. 3		一人1授業 2年英語科 Unit3 My Future Job 1-(5)	12. 15	⑳	12月道徳意識調査の分析と掲 示物作成
7. 10		一人1授業 1年数学科 文字式の利用 1-(4) 2-(2)	1. 19		研究紀要原稿の校正
7. 11		一人1授業 1年国語科 星の花が降るころに 2-(3) (4)	1. 26	㉑	取組の反省と今後の方向性
7. 14	⑩	第2回指導主事要請訪問 第1学年 4-(4)「むかで競走」模擬授業	2. 16	㉒	全体計画・年間指導計画などの 見直し
			2. 26	㉓	2月道徳意識調査の分析と掲示 物作成

先進校視察・研修会参加

のべ10名参加

月	回	主な研修内容	月	回	主な研修内容
5.26 ～30	1	道徳教育指導者養成研修(筑波)/ 1名	8.8	3	道徳授業パワーアップセミナー (東京学芸大)/3名
7.7	2	道徳教育総合支援事業研究指定 校プレ発表会(館林六小)/4名	11.20	4	道徳教育総合支援事業発表会 (館林六小)/2名

7 研究内容

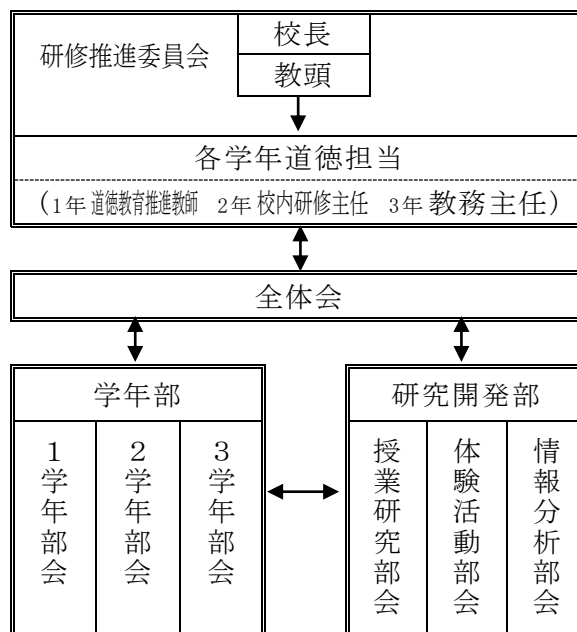
(1) 校内の指導体制の充実

①道徳教育推進教師と研修主任の役割分担と協力

- ・道徳教育推進教師は、道徳教育の全体計画および年間指導計画の整備における助言、積極的な授業公開をリードする。
- ・研修主任は、道徳教育の推進計画の作成と校内環境整備、各部会の連絡調整を行う。
- ・研修推進委員会や校内研修全体会への提案や授業づくりに関しては、道徳教育推進教師と研修主任の両者が協議して行う。

②全教師が力を発揮できる推進体制(右図参照)

研修推進委員会では、前年度の研究成果と課題、生徒の実態を踏まえ、校長の道徳教育基本方針に基づき、本年度の研究の方向性を検討する。全体会は、各部の進捗状況や研究について共通理解を図る。実質的な活動の部会として学年部と研究開発部の2つを設けた。



学年部

学年主任がそれぞれの部会長を務める。道徳の時間における教材準備(場面絵・ワークシートなど)、指導案の検討、ワークショップ型の授業研究会の運営などを行う。また、道徳教育の全体計画、別業、年間指導計画など、諸計画の見直しを担当する。

研究開発部

- 授業研究部会…担任5名で組織し、部会長は道徳教育推進教師を務める。道徳の授業づくりを研究し、指導案検討を行う。
- 体験活動部会…部会長は「総合的な学習の時間」主任を務める。学校行事や学年行事の体験活動後に感想を書くための共通の振り返り用紙を作成する。振り返り用紙の感想から生徒の心の変容(道徳的実践力の芽生え)を見取り、担任がコメントを加える。これを道徳ファイル『のびゆく心』に綴じさせ、道徳の時間の価値への意識付けや自分自身を振り返る場で活用している。
- 情報分析部会…部会長は進路指導主事が務める。21の質問からなる『道徳意識調査』を全校一斉に行い、生徒の変容を分析する。25年度は2月に実施し、26年度は4回(4月、7月、12月、2月)を予定している。

(2) 効果的な資料選定と指導計画の整備

①効果的な資料選定

道徳の時間の質的改善を図る上で、生徒に提示される資料は、本時のねらいの達成に即したものであり、生徒の実態に合ったものであることが大切である。そこで、既存の年間指導計画に位置付けられている読み物資料全てについて、その内容と発問例を点検し、必要に応じてより効果的と思われる資料と差し替えることとした。

資料は、内容項目ごとに必ず複数の副読本や読み物資料を読み比べた後、次の3つの基準で選定した。

- ア 資料が長すぎず、指導すべき内容項目と、その資料のもつ道徳的価値が適合していること
- イ 生徒の実態を踏まえ、感動を覚えたり葛藤したりするなど、生徒の心をとらえるものであること
- ウ 重点内容項目である「向上心・個性の伸長」「役割と責任の自覚・集団生活の向上」「人間愛・思いやりの心」「生命尊重」については複数の資料を選定し、それぞれの価値が系統的に深められること

内容項目2-(2)「人間愛・思いやりの心」については、「いじめの未然防止」の観点から各学期に位置付け、指導することとした。また、『私たちの道徳』（文部科学省）に掲載の読み物資料についても検討し、そのうち7点を26年度年間指導計画に位置付けた。

②道徳教育の全体計画と別葉の整備

中学校学習指導要領（「第1章 総則」の「第1教育課程編成の一般方針」の2 前段）には、次のような記載がある。

学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

生徒の道徳性を豊かにはぐくむためには、次のことが大切である。

- 1 各教育活動での道徳教育がその特質に応じて効果的に推進され、相互に関連が図られること
- 2 道徳の時間の学習において、それらが調和的に生かされること
- 3 道徳の時間の学習が計画的、発展的に行われること

そこで、道徳教育を学校の教育活動全体で推進するために次のステップで諸計画を整備した。（ ）内は担当を示す。

- 1 「道徳教育基本方針」※¹を職員に示す（校長）
- 2 「道徳教育の全体計画」※²を見直す（道徳教育推進教師を中心に全教師）
- 3 「道徳教育の全体計画別葉①～学校・生徒会行事と内容項目との関連表～」※³を作成する（道徳教育推進教師・学年部）
- 4 「道徳教育の全体計画別葉②～道徳の時間と教科指導・特別活動などとの関連表～」※⁴を作成する（教科主任・学年主任）
- 5 「道徳の年間指導計画」を修正する（学年部）

作成した諸計画（※1～4）の全容は、巻末「参考資料」に示した。これにより、24の内容項目を計画的、発展的に指導することが可能となった。計画はいずれも当該年度末及び翌年度当初に再検討し、必要に応じて加除修正することとした。

平成26年度 道徳教育基本方針

高山村立高山中学校

1 学校教育目標

◇基本目標

心身共に健康で、高い知性・豊かな感性・たくましい意志と創造力をもち、郷土を愛し、人間性豊かな生徒を育成する。

◇目指す生徒像

明るく…礼儀正しく、思いやりがあり、常に清潔な環境に心がけ、感動と感謝の心を大切に
する生徒

賢く…自ら学ぶ意欲にあふれ、進んで計画し実践できる生徒

逞しく…自ら考え、正しく判断し、苦しさや困難に負けない心と体を培い、今を精一杯生きる
生徒

2 学校経営方針及び本年度の努力点を踏まえて

学校教育全体を通じて道徳教育を行い、道徳性を養うとともに、人格の形成を目指した教育の
推進を図る。

- ・道徳の時間の指導を充実し、道徳的実践力の向上を図る。また、諸活動を通して自治的な活動
ができる生徒を育成する。
- ・生徒会主体の啓発活動を奨励し、学校・家庭・地域と連携して「いじめのない学校づくり」に
取り組む。

※1 平成26年度道徳教育基本方針（一部抜粋 全体版は巻末参考資料を参照）

平成25年度 道徳教育全体計画別業 道徳の時間と教科指導・特別活動等との関連表（第1学年）									
道徳教育 重点目標		自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成を目指す。		学校 重点 項目		1ー(5) 向上心・個性の伸長 2ー(2) 人間愛・思いやりの心		3ー(1) 生命尊重 4ー(4) 役割と責任の自覚・集団生活の向	
内容項目		道徳の時間		特別活動		総合的な 学習の時間		各教科	
				学級活動		生徒会活動		学校行事	
1-1)	望ましい生活習慣、健康、節度	自然教室での出来事(光村)(4月) 私の反抗期(日文教)(3月)	1学期の反省(7月) 2学期を迎えて(9月) 2学期の反省と冬休みの計画(12月)	校外班会美化作業(6・8月)	身体計測(4月) 学校保健委員会(7月) スキー教室(1月)				
1-2)	希望、勇気、強い意志	木箱の中の鉛筆たち(あかつき)(11月)	中学生になって(4月) 充実した学級生活(1月) 期末テストに向けて(6月) 1年の反省と進級への心構え(3月)	生徒総会(5月) 中体連壮行会(7月)	入学式(9月) 学校(10月) 始業式(10月) 卒業式(3月) 学校(11月) 文化祭(11月)				
1-3)	自主・自律、誠実、責任	裏庭での出来事(あかつき)(5月)	学級生活充実のための工夫(6月) 尾瀬学校の班編成(5月)	生徒総会(5月)	学校(10月) 文化祭(11月)				
1-4)	真実愛、理想の実現	空の勇者リンドバーク(光村)(5月)		文化祭(11月)	少年の				
1-5)	向上心・個性の伸長	石段の思い出(光村)(7月) トマトとメロン(日文教)(2月)	私の学習方法(5月) 1年の反省と進級への心構え(3月)	文化祭(11月)	マラソン大会(6月) 職業調べ(10月)			にじに見える橋(4月)	絵巻
2-1)	礼儀	半分おとな 半分こども(あかつき)(4月) あいさつする(光村)(11月)		生徒会交流会(6月)	さわやか運動(通)				
2-2)	人間愛、思いやり	父の言葉(光村)(4月) 旗(光村)(9月) ドイツにて(日文教)(3月) 雨の日の届け物(あかつき)(11月)	認知症サポーター養成講座(7月) 体育大会への参加(8月) 体育大会への参加(8月)	文化祭(11月)	生徒会交流会(6月) 文化祭(11月)			大人たち!	

横に見て空欄が多い内容項目は、「補充」を意図して道徳の授業を行います。

体験活動と道徳教育とのかわりがはつきりとなりました。

横に見て空欄が多い内容項目は、「補充」を意図して道徳の授業を行います。

体験活動と道徳教育とのかわりがはっきりとしました。

※4 道徳教育の全体計画別業②（一部抜粋 26年度全体版は巻末参考資料を参照）

(3) 道徳の時間の指導の工夫

① 道徳の時間の位置付け（補充・深化・統合）

学習指導要領第3章道徳では、「道徳の時間においては、（中略）各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする」とされている。つまり道徳教育は学校におけるあらゆる教育活動を通じて行われなくてはならないものであるが、各教科などで行われる道徳教育を補充したり、深化したり、統合したりする役割を負うのが道徳の時間だと言える。そのことを意識した授業づくりをするために、1単位時間の道徳が「補充」「深化」「統合」のいずれに当たるのかを考えて授業を準備することとした。授業の準備に当たっては、まず、全体計画別葉を参照し、その内容項目に関する指導を授業当日までにどれだけ行ってきたかを確認する。これまでの指導の機会が多く、生徒の実態を見ても高まりつつあると考えられる場合には「深化」を、指導の機会はあるがそれぞれがバラバラの経験となっているような場合には「統合」を、指導の機会が少なかった内容項目や生徒の実態からみて高まりが見られないような場合には「補充」を、それぞれ意識した授業づくりをすることを基本とした。

例) 3年生 内容項目 3-(1)生命尊重「キミばあちゃんの椿」（私たちの道徳）では全体計画別葉を横方向に見て確認するなどし、これまでに内容項目 3-(1)について学んだ経験の少なさなどの理由から、補充を意識した授業を行うこととした。

平成26年度 道徳教育の全体計画別葉① 道徳の時間と教科指導・特別活動等との関連表

内容項目		道徳の時間	特別活動			総合的な 学習の時間	各教科										地域・家庭との 連携	
			学級活動	生徒会活動	学校行事		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語			
1-(1)	望ましい生活 習慣、健康、 節度	たまにはメール来なく てもいいかも？⑤ 独りを慎む⑦	学習方法の見 直しと改善計 画④⑨	クリーンアップ 検査(通年)	学校オリエンテーション④、身体計測 ④、修学旅行⑥、学校保健委員会 ⑦、始業式終業式④⑦⑧⑨⑪、三者 面談・二者面談⑪、学校保健委員会 ⑪、人権週間⑪、イブジョック(前期)、 全校集会(通年)	修学旅行に 向けて⑤				自然と人 間④			体づくり運 動④ 健康な生 活と病気 の予防⑩	〇子どもの 成長⑤ ～⑦ 〇消費生 活①②		さわやかあい さつ運動(通 年) 学校保健委 員会⑦⑪		
3-(1)	生命尊重	キミばあちゃんの椿⑥ 生きついでいる⑩ 希望③			地震避難訓練⑥、防災訓練⑪、不審 者対応訓練②	花プロジェクト⑥・⑪ 挨拶⑨					生命の連 続性⑦			自然を描 こう⑨⑩⑫ 自画像⑪	健康な生 活と病気 の予防⑩ ～⑦	〇子どもの 成長⑤ Mother's Lullaby⑨	Let's Read「A Mother's Lullaby」 ⑨	ハンジ一植 ⑪



別葉を横に見ると、この内容項目についての学習機会が少ないことが分かります

② 指導観をもつ

授業構想において授業者が明確な指導観をもつことが重要であり、本校では以下の3点をその基本とした。

ア ねらいとする価値について解釈する(価値観)

まず、その時間で生徒に学び取らせたい道徳的価値は何なのか、授業者が内容項目についての分析を行うことから始める。参考となるのは、中学校学習指導要領解説〈道徳編〉であるが、その他の資料なども利用しながら、押さえるべき道徳的価値を確実に把握する。

イ これまでの生徒の学習状況と身に付けさせたい力を明らかにする(生徒観)

扱う内容項目に関して、これまでの授業や学校行事、日常生活など学校教育全体を通してどのような指導を行ってきたかを確認する。年間指導計画を利用して過去の道徳の時間で学んだ資料や授業展開などについても確認することとした。成長が見られる点や未熟と思われる点など、生徒の現状から本時では生徒にどのような力をつけさせたいか考える。また、その際①の項で述べたように「補充」「深化」「統

合」のいずれを意識した授業にするのかについても決定する。

例) 3年生 内容項目 3-(1)生命尊重「キミばあちゃんの椿」(私たちの道徳)ではそれに関連して以下のような指導を以前に行ってきた。そこで本時はかけがえのない自身の生命を精一杯生きることについて学ばせたいと考えた。

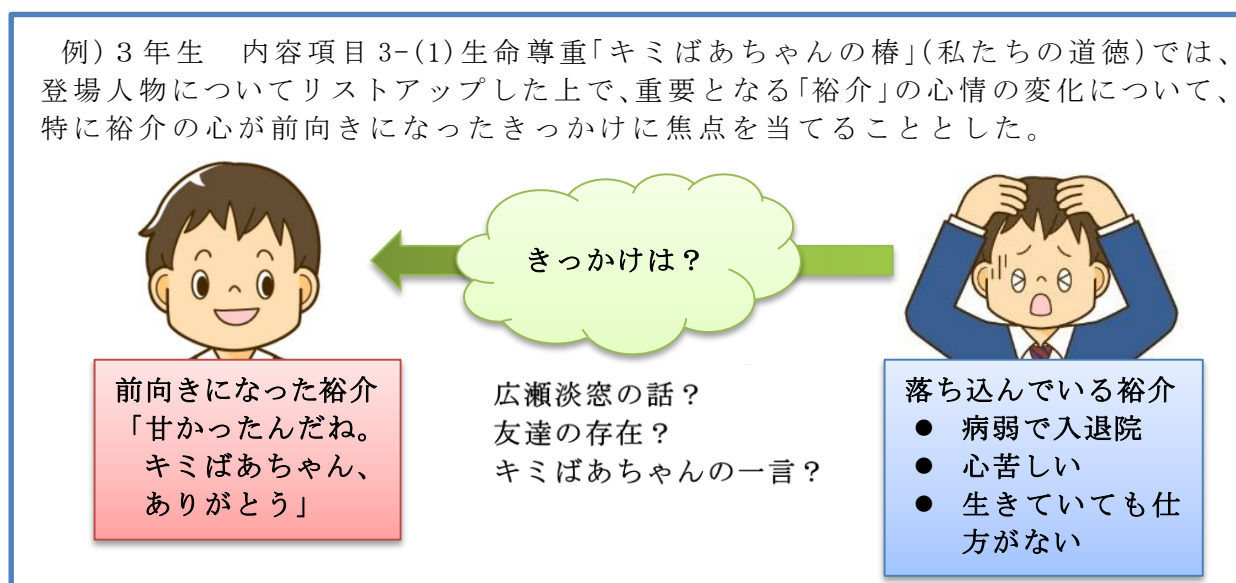


ウ 資料を分析し、その資料をどう扱うかを考える(資料観)

道徳の時間に、本時のねらいとする価値に生徒一人一人を向かわせるために用いる材料が資料である。授業を準備する際には十分に資料を吟味し、指導計画を立てる必要がある。学び取らせたい価値は何かを念頭に資料を読み込み、資料分析を行う。読み物資料であれば、登場人物やあらすじなどを簡単に押さえた上で、ねらいとする道徳的価値にかかわる部分はどこなのかを見極める作業を行う。特に、登場人物の心が揺れ動く場面などは重要であり、生徒の心を揺さぶるチャンスが隠されていることが多い。後述の資料提示の工夫にもかかわってくる。

指導案に設けた資料観の欄にはその資料がどのようなものであるか、どのような特徴があるか、どのような良さがあるかといったこととともに、その資料を活用して生徒にどのようなことを学びとらせていくかを明記する。

例) 3年生 内容項目 3-(1)生命尊重「キミばあちゃんの椿」(私たちの道徳)では、登場人物についてリストアップした上で、重要となる「裕介」の心情の変化について、特に裕介の心が前向きになったきっかけに焦点を当てることとした。



③ 道徳的価値の自覚を深めるための工夫

1 単位時間の道徳の時間で、生徒に道徳的価値の自覚を深めさせるために以下のア、イ、ウを授業展開の軸とした。

ア 道徳的価値について理解させる

以下の3つの理解について授業に組み込む工夫をした。

価値理解

その授業の中で扱う道徳的価値そのものの大切さを学ばせるためにとる手立てとして、どのようなものがあるか考えるようにした。主に資料から価値の大切さを学びとるための工夫が考えられる。



達成できそうな目標を一つ一つ実現していけば、きっと大きな目標にたどり着くはず！

人間理解

価値の大切さは分かったものの、それを実現するのは難しいことにも気付かせたい。例えば「それは本当にできるの」などと揺さぶりの発問を用意することが、より深い人間理解につながると考える。



分かってはいるけど、目標を目指して毎日努力するのって大変なのよね

他者理解

自分の考え方だけでなく、価値のとらえ方やその実現方法には多様な感じ方、考え方があることを学ぶ場面を設けたい。そのためには、主に生徒同士で意見を交流し合う場を設けることが多かった。仲間の発言を聞き合うことで自分にはなかった意見に気付くことができると考える。



目標を書いて部屋に貼って頑張りたいと思います

そんな風に考える人もいるんだなあ



例) 3年生 内容項目 3-(3) 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び
「足袋の季節」(出典 光村図書 中学道徳③ きみがいちばんひかるとき)では

本当は十銭を渡したのに、「五十銭玉だったね」と聞かれて思わず「うん」と言ってしまった少年期の筆者や初任給をもらうまでおばあさんに会いに行こうとしなかった青年期の筆者の中にある心の弱さや醜さ

おばあさんからもらったやさしさを今度は誰かに返していきたくて考えている大人になった筆者の強さ・気高さ

これらに気付く

価値理解

当時の少年の状況を想像し、心の弱さ・醜さにも共感的理解をする



人間理解

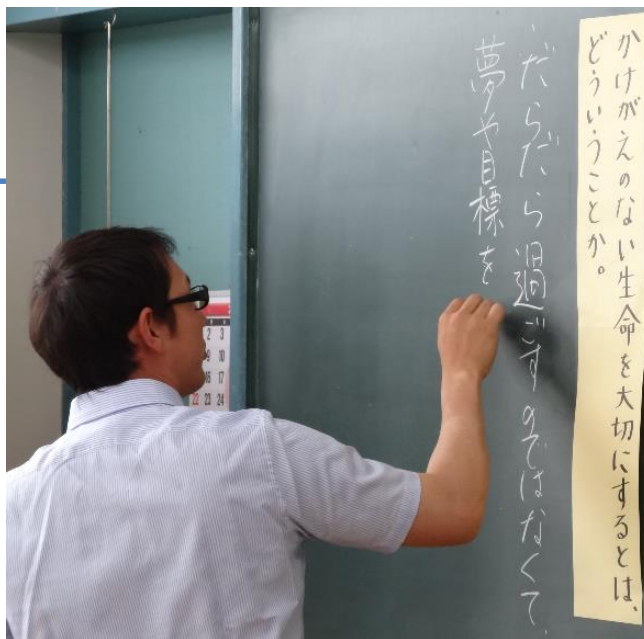
筆者の生き方を自分の生き方と照らし合わせて考えたり、話し合い活動を通じて友達の感じ方や強さ・気高さのとらえ方に気付いたりする

他者理解

イ 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせる（自己理解）

授業展開の後半の部分では、自分とのかかわりで価値をとらえるための発問を用意した。いわゆる自己理解を深める場面である。ここでは、資料から離れてこれまでに学んだ価値について自分自身がどうであったかを振り返ることなどが主となった。机上の論理だけで終わらせないためにも必要な手立てであるといえる。

例) 3年生 内容項目 3-(1)生命尊重「キミばあちゃんの椿」(私たちの道徳)では、「かけがえのない生命を大事にするとはどういうことか」という発問を通して、それまでに資料や中心発問を通して理解した価値を自分なりに解釈させ、自分のこととしてとらえさせるようにした。意見交流をもち、仲間の考えにもふれることができた。生徒からは、自分のこれまでの生活を振り返っての意見が出されていた。



ウ 道徳的価値にかかわる課題を培い、人間としての生き方の自覚を深める

授業の終末では、現在の自分自身のようすを客観的に見つめたり、将来の自分の姿を思い浮かべたりするなどして、これから社会に向けて歩き出す自分にとって何が課題なのかを感じ取らせるようにした。昨年度は『心のノート』を、今年度は新たに配布された『私たちの道徳』を利用することが多かった。

例) 3年生 内容項目 3-(1)生命尊重「キミばあちゃんの椿」では、私たちの道徳 102 ページの詩の音読を終末の活動として位置付けた。その授業の中で学んだことを振り返るとともに、自分自身の課題に気付くためにも、まとめの活動として有効であると考えた。



④ 発問の工夫

前述の①～③を踏まえ、生徒に投げかける発問について吟味していくこととした。

最初に考えるのは、ねらいとする道徳的価値に迫る中心発問である。中心発問を考える上で留意したのは以下の3点である。

- ア その発問が本時に理解させたい内容項目と合致しているか
(特に②の資料分析の際に行った価値の解釈と合わせて考えた)
- イ 生徒の多様な考えを引き出すことのできる発問であるか
- ウ 全生徒にとって取り組みやすい課題となっているか

また、中心発問に対して予想される生徒の反応を想像し、その反応がこちらのねらいとする方向に向いていない場合やさらに深く考えさせたい場合に対応するために切返しの発問を用意しておくようにした。

例) 3 年生 内容項目 3-(1) 生命尊重「キミばあちゃんの椿」について
平成 26 年 6 月 23 日(月) 職員による模擬授業指導案(第 3 案)



中心発問

「裕介が握り締めた手に込めた思いは何だろう」

予想される生徒の反応

- 自分でもできることを精一杯するよ
- 病気なんかには負けないで頑張るよ
- 気遣ってくれる友達のためにも頑張るよ

課題点

- ・生徒にとって取り組みやすい課題ではあるが生徒から多様な考えを引き出すことができる発問であるかは疑問が残る
- ・生命尊重という内容項目に迫ることができているだろうか?

平成 26 年 6 月 30 日(月) 指導主事要請訪問指導案(第 4 案)



中心発問

「裕介はどうして前向きになれたのだろうか」

実際の生徒の反応

- キミばあちゃんが同じような人のことを話してくれたから

→ 切り返しの発問

「では広瀬淡窓のどういうところが、裕介の気持ちを変えましたか」

- 広瀬淡窓という裕介に似て病弱な人でも、自分でもできることを見つけ、それに向け一生懸命生きていることが希望に思えた。
- 自分と同じ病弱な人でも塾を開いたり、病気を言い分けにしないで働く人だったから、がんばれば自分も広瀬淡窓のようになれるのではないかと、思って勇気をもらった。
- 広瀬淡窓は、病弱ながら教師という道を突き進んで痛みに耐え懸命に生きてきたことが分かって、気持ちが楽になった。

課題点

- ・どうして前向きになれたのかという質問に対して「広瀬淡窓」以外の回答が得られず、広がりが見られなかった
- ・「かけがえのない命」というキーワードに迫りきれなかった点

平成 26 年 7 月 授業後の検討

裕介の心情の変化にスポットライトを当て中心発問として扱ったが、そのきっかけとなった広瀬淡窓の話を持ち出したのはキミばあちゃんであり、キミばあちゃんの意図や物語のタイトルとなっている椿に注目するのによいのではないかというアドバイスをいただいた。本時のねらいと照らし合わせ、以下のような中心発問の改善案を得た。

本時のねらい

生きているすべての生物にとって命とは絶対的なものであり、なくしてしまえば代わりはないものであることを実感し、命ある限り人間として精一杯生きようとする気持ちを培いたい

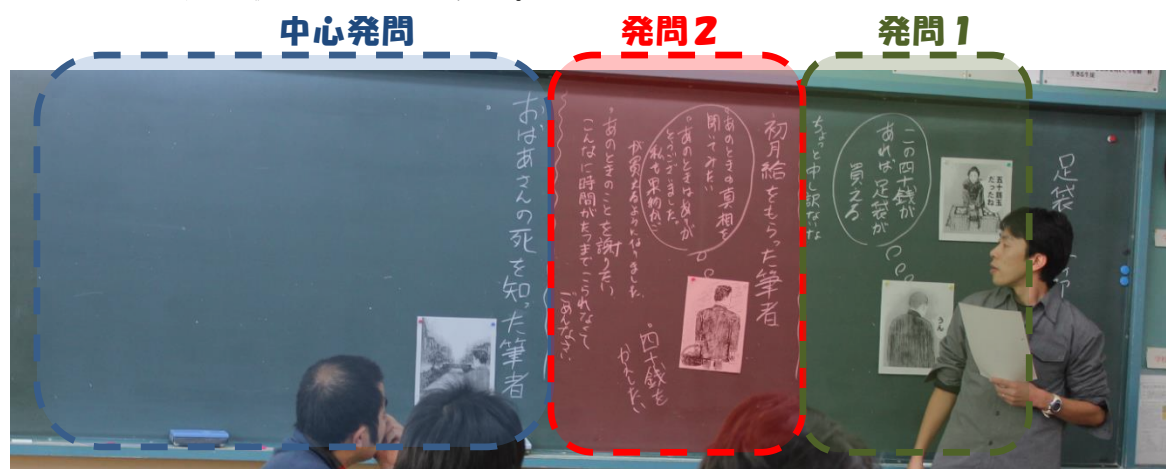
改善案

「どうしてキミばあちゃんは、『椿は最後の最後まで生き切るから好きなんだ』と言ったのだろうか」

生徒が自ら考えたり、生徒同士の意見交流をしたりする機会を十分に確保するために、発問を中心発問のみに絞ったり、最初に中心発問を投げかけるなどして、できる限り中心発問に時間をかけて深めていく授業展開についても研究を行った。

例) 3年生 内容項目 3-(3) 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び
「足袋の季節」(「中学道徳③きみがいちばんひかるとき」光村図書)について
平成 25 年 11 月 18 日(月) 職員による模擬授業指導案(第 2 案)

- 発問 1** 「五十銭玉だったね」と言われて「うん」とうなずいたとき、筆者はどのような気持ちだっただろうか。
- 発問 2** 初月給をもらい果物かごを手におばあさんを訪ねた筆者は、おばあさんに会ってどのようなことを伝えようとしていたのでしょうか。
- 中心発問** おばあさんの死を知った筆者は、なぜ自分に腹を立てて果物かごを色内川に流したのだろうか。

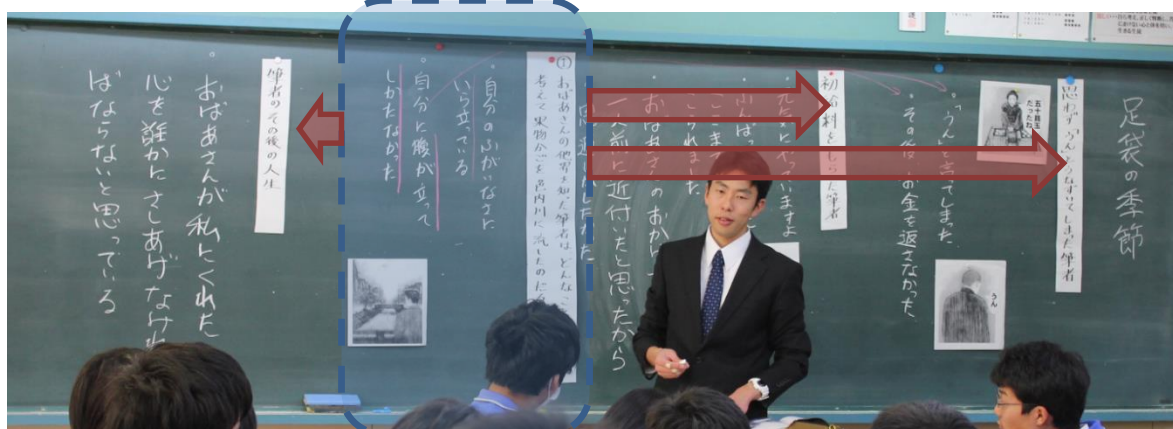


中心発問をもとに深めていく授業展開を作り出すために、中心発問を最初に問う授業展開に変更した。

平成 25 年 12 月 9 日(月) 指導主事要請訪問指導案(第 3 案)

- 中心発問** おばあさんの他界を知った筆者はどのようなことを考えて果物かごを色内川に流したのだろうか。

中心発問 (最初に板書)

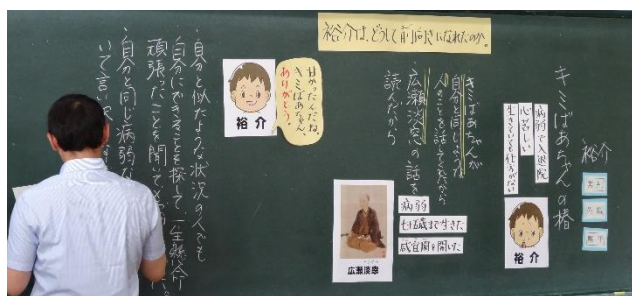


中心発問を最初に問い、その中で生徒から出た発言をもとに、主人公の過去を振り返ったり、その後の人生を想像したりして主人公の心情を読み深める。その後、再び中心発問に戻ることで、より深まった議論ができるであろうと考えた。

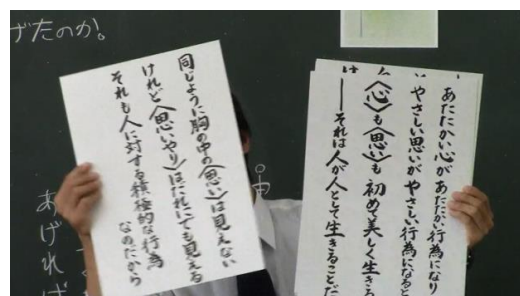
⑤ 効果的な資料提示の工夫

道徳の時間における目標は資料を読み取ることではない。文章の読解が苦手な生徒にも場面を想像し、登場人物の心情を簡単に理解できるよう資料提示の工夫を行った。具体的には次のようなことを心掛けた。

- ア 場面絵や発問を黒板に掲示し、生徒の意見を中心に板書をまとめる
- イ 吹き出しや手紙形式を取り入れるなど、生徒の考えを引き出すワークシートを工夫する
- ウ 道徳的価値が生徒の心に刻まれるよう、詩を読んだり映像資料を流したりして視覚・聴覚に訴える



視覚に訴えた板書



フラッシュカードを示しての詩の朗読

例) 3年生 内容項目 3-(3) 「足袋の季節」での構造的板書

その後(現在)

中心場面

過去(少年期)

転機となった橋をその象徴としてイメージさせる

⑥ 意見交流の場の設定

道徳の時間が自身が資料を読み取り、考えるだけの単純な作業とならないよう、さらには、道徳的価値に対する様々な考えにふれる(他者理解を深める)ために友達同士での意見交流の場を設定する工夫を行ってきた。

隣の席の2人での意見交流、小グループでの意見交流や、学級全体での意見交流が考えられるが、その発問でどれくらい深めたいか、必要な時間なども考慮しながら授業の中に組み込んでいくようにした。



近くの友達との意見交流

話し合い活動が円滑に進み、なおかつ全員の生徒が参加しやすいよう平成25年度に話し合い活動の簡単なマニュアルを作成した。それが「道徳 話し合いの約束」である。各教室に掲示し、話し合い活動を行う際にはこれを基本に司会役を立てて実施している。道徳の時間に継続して使用してきたことや、教科の学習でも使用されてきたことで、次第に自然体で話し合い活動を実施できるようになってきた。

道徳 話し合いの約束

- ① 人が話しているときは、最後まで聞く。
- ② 司会役が指名する。指名されてから意見を言う。司会役も意見を言う。
- ③ 自分の意見は必ず理由を付けて言う。
- ④ 自分も同じ意見だとしても必ず発言する。
「私も同じ意見で・・・です。理由は・・・。」
- ⑤ 反対の考え方の時は、必ず理由をはっきりと言う。
「私は〇〇に反対です。理由は・・・。」
- ⑥ 理由が納得できたらその意見は正しいと認める。
- ⑦ 誰かの考え方に納得できる部分があれば、それを参考にして自分の意見を修正してもよい。

⑦ 評価の工夫

道徳の時間の評価は非常に難しく、本校においても課題は多い。実践してきたこととしては、中心発問のように重要と考えられる発問について、一人一人が自分の意思を決定できるか(本校ではこれを「自己決定」と呼ぶ)を確認するようにした。自己決定の確認方法としては、主に考えを記入したプリントをチェックする方法や出された意見を大まかに分類し自身の考えと同じところに挙手させる方法、そして、心情円盤を利用して2つの思いのバランスがどれくらいかを視覚的に表現させる方法などが挙げられる。

また、授業の終わりには毎回統一形式のアンケートを実施し、その授業について生徒の興味関心や理解度、積極性などを評価することとした。

統一形式のアンケート

*道徳の時間を振り返ってみよう。

A 意欲的にできた	B できた	C あまりできなかった	D できなかった
1 資料について、興味を持って読めましたか	A	B	C D
2 自分の考えを伝えることができましたか	A	B	C D
3 友だちの考えを聴くことができましたか	A	B	C D
4 授業の内容について深く考えることができましたか	A	B	C D

(4) 模擬授業の実施と授業研究会

道徳の時間をより充実したものとするため、26年度は研究授業を行う際に次のようなステップで道徳の授業をつくってきた。

- ステップ1 担任が指導案（第1案）を立てる
- ステップ2 授業研究部で第1案を検討する⇒修正したものが第2案
- ステップ3 模擬授業（教師が生徒役）及び授業研究会の実施⇒修正したものが第3案
- ステップ4 第3案にて同学年の別のクラスで授業を行う
⇒再度修正したものが第4案（完成版）
- ステップ5 第3案または第4案にて公開授業を行う

道徳の時間には、通常一つの資料について3年に一度しか指導を行うことができない。そのことが教師の指導力が思うように向上せず、授業改善が進まない一因となっている。しかし、こうしたステップにより、事前に複数回授業を行うことになり、担任は自信をもって授業に臨むことができた。

模擬授業では教師が生徒役を務めるため生徒の考え方を反映しきれていないが、次のような視点で指導案を見直すことにつながった。

- ア 導入では、短時間で生徒の心を本時の価値に向けることができたか
- イ 中心発問は、生徒の多様な意見を引き出す上で適切であったか
- ウ どのような問いかけ方をすると生徒は答えやすいのか（発問の工夫）
- エ 板書や場面絵は、視覚的に効果があったか（資料提示の工夫）
- オ 本時の流れで、価値を自己の生き方に照らして考えさせ、思いや課題を培うことができたか（自己決定）

【模擬授業実践例—1】

深 化 を意図した道徳の時間

主題名 「集団生活の向上」

内容項目 4－(4) 集団生活の向上

平成26年7月14日実施

第1学年A組27名

指導者 奈良 達也

- 1 **ねらい** 自分が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚して集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。
- 2 **資料名** むかで競走 （出典 日本文教出版 あすを生きる①）
- 3 **主題設定の理由《指導観》**
 - (1) ねらいとする道徳的価値について《価値観》→省略
 - (2) 生徒の実態《生徒観》→省略

本時の授業は「深化」を意図して行う。生徒は学校生活において学級や部活動集団で生活をしている。そのため、集団の意義やその向上について考える機会が多い。本時の学習を通して集団生活を向上させようという自覚を深め、道徳的実践意欲を高めていきたい。

(3) 資料について《資料観》

本資料では、学級のリーダーである拓也が特訓に励む一宏の姿を目撃したことで心情を変化させ、学級の輪が広がっていく様子が描かれている。拓也の心情の変化に着目することで、集団における役割と責任の大切さを生徒に意識させ、集団生活の向上に努めようとする態度を育てることができるであろう。

4 深化を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) 道徳的価値について理解するために

- ・ 中心発問について考える時間を長く設定し、学級のリーダーである拓也の心情をとらえさせることで、リーダーの気持ちとまわりのメンバーの気持ちとを対比して考えられるようにし、価値理解につなげる。
- ・ 盛り上がらない練習に意欲をなくしかけた拓也の姿を想像させ、共感的理解を得ることで人間の弱さにも目を向けさせ、人間理解につなげる。
- ・ グループでの話し合い活動を通して、それまで気付かなかった仲間の意見を知り、他者理解につなげる。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- ・ 資料における学級の様子や登場人物の心情の変化から学んだ道徳的価値をもとに、これまでの自分について問うことで、自分の行為や経験に目を向けさせる。
- ・ 導入で、過去に行われた学級対抗の行事を想起させることで振り返りやすくすると共に、自分が所属する集団は学級だけではないことをヒントとして与える。

(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い、人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・ 教師の説話を通して、今の学校生活だけに目を向けるのではなく、将来様々な集団に所属し、生活を送っていくことに意識を向けさせる。学級や部活動が自分の所属する集団の主たるものであり、ここで、集団の向上に貢献できる資質を高めていくことが、これからの人生において所属していくであろう集団の生活を向上させ、自分の人生をよりよいものにしていくことに気付かせる。

5 本時の展開

過程	学習活動と発問「 」(◎は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入 (3分)	1 生徒会交流会での長縄跳びや体育大会での団体競技を振り返る	○本時の授業が集団生活の向上をねらいとしたものであることに気付かせる ○1学期に勉強した道徳の時間の内容にもふれる
展開 (42分)	2 資料「むかで競走」の音読を聞く	○資料を読む前に簡単に主要な3人の登場人物について紹介する
	3 登場人物の心の動きから集団生活がどうやって向上していくのか考えていく ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞ ◎(1)「日曜日、一宏たちが練習する姿を見た拓也は、なぜその場からしばらく動けなかったのか」 ・一宏に申し訳ない気持ちになったから ・リーダーは自分なのにやる気をなくしていたことへの怒り ・一宏の本当の気持ちを知り、自分もやらなくてはという気持ちになったから (2)「拓也や一宏と、一宏を支える仲間たちの頑張りは、この学級にどんな変化をもたらしたか」＜価値理解＞	 模擬授業の様子 ○個人で考え、ワークシートに記入させる。その後3、4人のグループにする。各グループから意見を一つ発表することを伝える ○各グループから出される意見を板書し、「後悔」「怒り」「やる気」などのグループに分類する ○拓也や一宏と、一宏を支える仲間たちの頑張りが、運動会での目標を優勝から完走へ変えたことを押さえる
	4 自分の生活を振り返る＜自己理解＞ (3)「今までの自分は、集団の一員として目標に向かって力を注いだ経験があるだろうか」 (4)「その結果どういう気持ちになっただろうか」	○学級だけでなく、その他の集団についても考えさせる ○経験を思い出せた生徒には、その時の気持ちを思い出させる ○経験を思い出せない生徒には、行事などの経験を想起させる ☆自身の性格や考え方、これまでの生活に照らして、自分なりの意見をもつことができたか
終末 (5分)	5 私たちの道徳 p.166 の文章を読み、集団生活の向上には何が必要か、改めて考える 6 教師の説話を聞く	○人生の中で、その時その時に所属する団体があることのありがたさを伝え、その集団の向上に努めることの大切さを伝える

6 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

T：「日曜日、一宏たちが練習する姿を見た拓也は、なぜその場からしばらく動けなかったのでしょうか。1班から発表をお願いします」

C1：「拓也は自分がリーダーなのに後ろ向きな気持ちになっていて、それが恥ずかしかったから。リーダーなのに情けないと思ったから」

T：「続いて2班、お願いします」

C2：「運動が苦手な一宏が一生懸命頑張っていたことに気付いたから。拓也は、自分自身がリーダーなのに一宏に声をかけなかったことを恥ずかしく思ったり、後ろめたく思ったりしたからです」

T：「では、3班お願いします」

C3：「リーダーなのに、一宏に声をかけなかった。一宏を邪魔者扱いしていたから。クラスの友達が一宏のことを笑っていたときに止めることができなかったから、リーダーとして反省して。また、一宏と一緒に練習をしてくれる存在に気付いたから」



少人数の班での意見交流

7 考察

授業後、「資料提示の仕方」「発問の仕方・内容」「自己決定」の3つの視点から、次のように分析した。（○は成果 △は課題 ☆は改善策）

(1) 資料提示の仕方について

○中心発問を早い段階で提示したので、グループでの話し合いに時間を使うことができた。

△黒板に掲示した登場人物の絵の順番と、道徳シートを同じにする。

(2) 発問の仕方・内容について

○切り返しの発問を用意して、考えを深めさせていた。

△指導案に「グループの意見を一つ発表」とあるが、自分の考えなのか、一番良いものを発表するのか、分かりづらい。

△内容項目 4-(4)「集団生活の向上」の中心発問として拓也個人の心情を問うのは違和感がある。

☆発表は、どの班からも出ていない意見だけを言わせる。発表者を予め決めておくとするれば、意見の数が少ない班から発表させるという方法もある。

☆中心発問は、「クラスの合言葉が『全員転ばないで完走』に変わったのはなぜでしょう」ではどうか。そのとき、目標がレベルダウンしたのではないことを分からせておきたい。

☆「目標が優勝から完走に変わったが、足りなかったのはどんなことだったのか」という質問を入れるとよい。

(3) 自己決定について

△中心発問について、考えてワークシートに記入する時間が3分というのは短い。

△(3)「今までの自分は、集団の一員として目標に向かって力を注いだ経験があるだろうか」という発問で、当番活動を含めて考えることは適当だったのか。また、中心発問とのつながりという点で、妥当だったか。

△展開後段の発問(3)と(4)「その結果どういう気持ちになったか」という質問を分ける必要があるか。

☆展開後段の発問(3)を「今までの自分は、役割と責任を自覚して活動したことがありますか」に変えれば、(4)で“役割と責任を自覚すればこういう良いことがある”という気付きが生まれただろう。

【模擬授業実践例—2】

補 充 を意図した道德の時間

主題名 「謙虚に他に学ぶ」

内容項目 2－(5) 寛容の心・謙虚

平成26年7月23日実施

第2学年A組20名 指導者 宮下 昌志

- 1 **ねらい** 相手の個性を認め、謙虚に他に学ぼうとする態度を育てる。
- 2 **資料名** あいつの一言 (出典 広島県教育委員会 心の元気Ⅰ)
- 3 **主題設定の理由《指導観》**

(1) **ねらいとする道德的価値について《価値観》**→省略

(2) **生徒の実態《生徒観》**→省略

本時の学習では、資料を通して偏狭なものの見方、考え方にならず友達のよさや個性を謙虚に学ぶ姿勢の大切さを学ばせると共に、自身のこれまでを振り返らせ、謙虚に他に学ぼうとする態度を育てたい。

本時の授業は「補充」を意図して行う。生徒はこれまでの授業や生活で寛容の心、謙虚さについて十分に学習を積んできたとはいえない。そこで、資料「あいつの一言」で主人公の心情を読み取る活動やアサーショントレーニングを通して、学ぶことの少なかった寛容の心・謙虚に関する補充を行う。

(3) **資料について《資料観》**

実際にあった奉仕作業での出来事を文章にしたものであるため、生徒にとって身近に感じられる資料である。主人公の「健太」が「渡辺」に対して偏った見方しかできず、「渡辺」の頑張りに腹を立て、ひどいことを言ってしまう。しかし、「渡辺」から返ってきた言葉は「健太」を思いやる言葉で「健太」の気持ちに変化する様子が描かれている。

「健太」の心情を考えることにより、偏った見方ではなく、多面的な見方で友達を見ることによって相手の良い面、悪い面が見えてくることに気付かせたい。また、普段はなかなか歩み寄れない友達に対して、広い視野で認め合うことについて考えさせたい。

4 補充を意図し、ねらいとする道德的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) **道德的価値について理解するために**

- ・ 心情円盤を利用し主人公の心の変化をとらえることで、登場人物の心の動きや移り変わりを分かりやすくする。
- ・ 健太の心情に迫ることで、つい、仲間を見下した発言をしてしまった思いにふれ、価値の実現の難しさを知る。
- ・ 登場人物の心情を考え、班(3～4人)で話し合うことによって、偏った考えをもつのではなく、自分が気付かなかった考えを発見できるようにする。また、その考えにおいても意見を出し合い、広げていく。
- ・ 道德的価値を理解できるようワークシートを活用し、書く時間を確保する。また、心の変化が全体でも把握できるよう心情円盤を用いる。

(2) **自分とのかかわりで道德的価値をとらえるために**

- ・ アサーションを通して相手を認める言葉を自分の価値観をもとに考えられるようにする。これにより自分とのかかわりで道德的価値をとらえることができる。

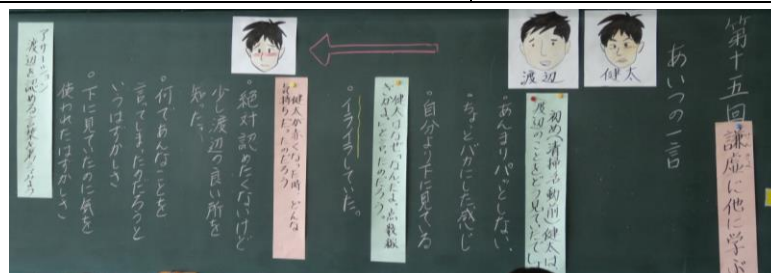
(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い、人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・ 授業の終末で、自他への尊重を再確認できるよう「私たちの道徳」p.74・75の文章を読み聞かせ、自己の生き方についての自覚を深める。

5 本時の展開

過程	学習活動と発問「 」(◎は中心発問) ・ 予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入 (2分)	1 本時の主題を伝える	○本時は「謙虚に他に学ぶ」について考えることを伝える
展開 (45分)	2 資料を読んで話し合う ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞ (1)「初め(清掃活動前)、健太は渡辺のことをどのように見ていたでしょう」 ・ 部活には熱心ではない ・ 未提出リストにいつも載っている ・ 授業中、さされるとどぎまぎしている (2)「健太はなぜ『なんだよ。点数稼ぎかよ』と言ったのだろう」 ・ 普段思っている渡辺の姿と違うから ・ 俺だって渡辺と同じようにやっているのに、誰も認めてくれないから ◎(3)「健太が赤くなった時、どんな気持ちだったのだろう」 ・ 自分がひどいことを言っているのに、渡辺は自分のことを気遣ってくれた ・ 渡辺ってやさしいな ・ 渡辺に負けた	○健太の心の動きから、渡辺への見方が変わってきたことを押さえる ○健太の渡辺を認める気持ちは何%くらいかを心情図に表し、その理由を書かせる ○「なんだよ。点数稼ぎかよ」と言った健太の気持ちを考えさせることにより、健太も認めてほしいことに気付かせる ○健太の渡辺を認める気持ちを再度心情図に表させ、その理由を書かせる。少人数のグループで互いに見せ合い話し合うことで互いの考えの違いに気付かせる ○健太が赤くなったときが、渡辺のよいところに気付いた瞬間であることを押さえる
	3 自分の立場で考える＜自己理解＞ (4)『「点数稼ぎかよ」ではなく、渡辺を認める言葉を考えてみよう。あなたなら、どう言いますか」 ・ 渡辺、頑張ったな ・ おまえってえらいな ・ 渡辺って意外と良いところあるじゃん	○アサーションを行う ☆自身の性格や考え方、これまでの生活に照らして、自分の意見をもつことができたか
終末 (3分)	4 「私たちの道徳」p.74の文章を読み、自他への尊重には何が必要か、改めて考える	○余韻を残して終わる

6 実際の板書



7 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

T：「健太が赤くなった時、どんな気持ちだったか、心情図も含めて発表してください」

C1：「自分が恥ずかしくなって、赤くなったのだと思いました。心情図は、半分くらい青くしました。班の中では、半分より過ぎていた人もいたし、ゼロの人もいました。自分がかまわれたようで認めたくないという人もいたし、今まで知らなかった渡辺を知ることができて、少し認めてもいいかなという人もいました」

T：「他に言ってくれる人はいますか」

C2：「自分は、何であんなこと言っちゃったんだ

ろう。まずいな。かばってくれたのにごめん、自分の心が狭かったという意見です。班の意見としては、自分だけが悪者になって言わなければよかったなあという意見と、認めていないかなあという意見と、今まで自分が知らなかった価値観を知ったという意見と、自分の言ったセリフが恥ずかしかったという意見がありました。心情図の方は、青が一応増えてはいたけれども（あまり変わっていない）、という感じでした」

C3：「自分は、まずいこと言っちゃったなあという意見です。ほかには、下に見ていたヤツに気を遣われて恥ずかしかったとか、情けないとかっていう意見がありました。心情図は、自分は、渡辺君のことを認めてはいるがやっぱり嫌だというので半々です」



心情円盤で確かめ合う

8 考察

授業後、「資料提示の仕方」「発問の仕方・内容」「自己決定」の3つの視点から、次のように分析した。（○は成果 △は課題 ☆は改善策）

(1) 資料提示の仕方について

○プリント1枚の資料で、全体を見通せるので考えやすかった。

○登場人物の顔の絵（表情）は内容をイメージしやすかった。

○心情図は視覚に訴え変化がわかりやすい。

○「謙虚」の意味を確認したこと。

△板書配置。様々な心情図をどのように掲示するのか。

△終末で、生徒に音読をそろえて行わせる必要があるか。

△「私たちの道徳」p.74は、今回の資料にふさわしかったか。

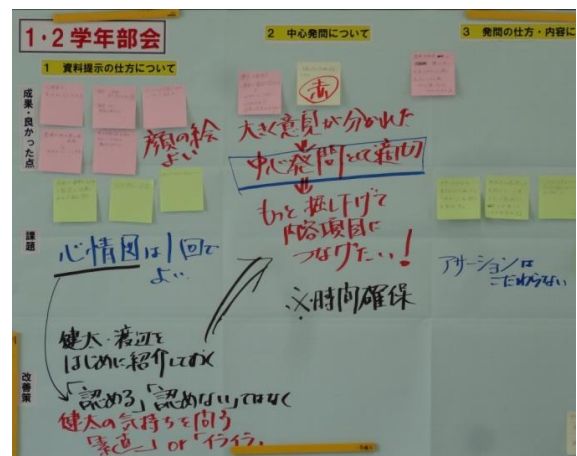
(2) 発問の仕方・内容について

○中心発問が適切だったので大きく意見が分かれた。

△さらに掘り下げて内容項目につなげたい。

△中心発問について議論する時間の確保が必要。

☆切り返しの発問で深めていく必要がある。



授業研究シートのまとめ

(3) 自己決定について

△アサーションと自己の振り返りのつながりが弱かった。

△指示の明確化が必要。(心情図とワークシートへの記入と、どちらを先に取り組むのか)

☆「謙虚に他に学ぶ」につながる発問を考える。

9 助言（白木みどり教授より）

- ・資料分析によって、構造を順序立てて把握することが授業づくりには最も大切である。そうすることが、不十分な焦点化で生徒が混乱することを防ぐことになる。登場人物は誰で、何が問題となっているのか、何を課題として思考させるのかを整理することが、準備段階としては特に必要である。資料分析としては、まず5W1Hを明確にし、そこに生じている道徳的な課題は何か、何を思考させるのか、ねらいは何かなどを整理するとぶれない授業ができる。それを踏まえ、発問を工夫する。
- ・明確なねらいを定めたグループ活動を行い、グループでの多様な価値観を参考にして、自分はどうかを発表させる。発表は個人の価値観の表現の場であって、意見をまとめる場ではない。道徳ではグループの意見をまとめ、答えを出すことが目的ではなく、話し合ったことが個にどう影響するかが重要となる。
- ・導入（5分程度）を工夫して生徒を引き込むことが大切である。映像・音響・アンケートなどを活用し資料に引き込むことができると生徒が授業に興味を示すようになる。
- ・資料は担任が読むことが基本であるが、BGMをバックに朗読（国語教諭）を流すという方法もある。
- ・決意表明になりがちな終末を工夫し、自分のこととしてとらえられる時間を保証しなければならない。そのための雰囲気づくりが大切であり、映像資料などの活用によって余韻をもって終わらせることが大切である。
- ・道徳の時間の振り返り（自己評価）は良い。その積み重ねによって生徒個人の変容が分かり、評価につながる。



講義「道徳の時間における言語活動のあり方について」 講師：白木みどり教授（右）

(5) 学校教育全体を通して行う道徳教育

① 教科指導における道徳教育（H26年度の実践のみを掲載）

ア 社会科の実践（5月14日実施 3学年A組 指導者 金井俊一）

○題材 世界恐慌と日本の中国侵略

○ねらい 日本の中国侵略の実態と、それに対する中国の動き（中国の苦難）を理解すると共に、強まる戦時体制下での国民生活（の苦難）を理解する。

○道徳とのかかわり

4-(2) 公德心・社会連帯・よりよい社会の実現 4-(10) 国際理解・人類愛

日本の中国侵略（満州事変・盧溝橋事件・南京事件など）を通して、今後の中国（の人々）との関係を考えさせることで、よりよい社会の実現や国際理解（相互理解）について考えさせる。

○考察

- ・ワイツゼッカー大統領演説の抜粋をきちんと読み取り、正しい歴史認識に立ったうえで、相互理解に基づく対応の必要性に気付くことができた。
- ・学習内容がよりよい社会の実現、国際理解に直結しており、本時の学習を通してそのことを伝え考えさせることができた。
- ・今後の中国との関係を考えさせるための材料として、歴史的な内容と現在の事情（ニュース）を比較できると学習がより深まった。



大統領演説の抜粋から考える

イ 理科の実践（6月9日実施 2学年B組 指導者 山本順子）

○題材 第5章 化学変化とその利用

○ねらい

- ・化学変化には熱の出入りが伴うことを見出し、例をあげて説明することができる。
- ・家庭用ガス（メタン、プロパン）の燃焼の化学反応式を書くことができる。

○道徳とのかかわり 1-(4) 真理愛 2-(5) 広い心

化学変化には熱を必要とするものもあることを知り、説明することは、それまでの自分の考え方に無かった概念を受け入れることである。また、プロパンという初出の物質について、その化学式と既習事項から燃焼する際の化学反応式を作り出す活動は、生徒の科学的な思考や表現力を高めるだけでなく、真理を愛し、学ぶことに積極的な態度を育むことにつながると考える。

○考察

- ・化学変化における熱の出入りについては概ね理解することができた。1-(4) 真理愛については、日々の授業を通して育っている様子が見られた。
- ・新しい概念を受け入れることが果たして 2-(5) 広い心につながったかどうかは、難しいところである。



塩酸の温度変化を読む

ウ 英語科の実践（7月3日実施 2学年A組 指導者 佐藤俊宏）

○題材 Unit 3 My Future Job

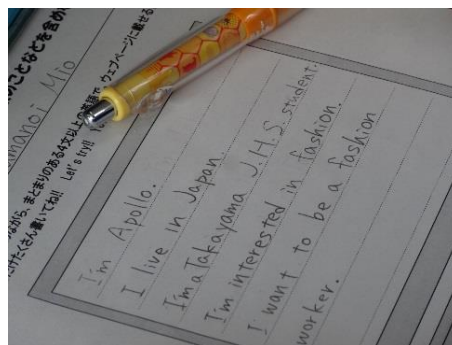
○ねらい Webページに載せる自分の就きたい職業のことなどを含めた4文以上のまとまりのある自己紹介文を作成することができる。

○道徳とのかかわり 4-(10) 国際理解

インターネットは世界中の人々が閲覧可能である。インターネットを通して自分の夢を世界に向けて発信していくことは、国際的視野に立ち、世界の中の日本人としての自覚を持たせることができる一つの手段であると考ええる。

○考察

- ・インターネットの向こう側にいる外国の方を意識して、興味をもって取り組んでいる様子が見えた。
- ・「Webページに載せるということは世界の人々が目にするものである」という設定を自然に受け止めることができていた。



自己紹介文

エ 数学科の実践（7月10日実施 1学年A組 指導者 T1 竹内正則 T2 若林裕子）

○題材 第2章 文字と式 3節 文字式の利用の第1時

○ねらい いろいろな数量を式で表したり、表された式の意味を読み取ったりすることができる。

○道徳とのかかわり 1-(4) 真理愛 2-(2) 思いやりの心

既習事項を組み合わせて、具体的な数値から結果を予想したりしながら、文字を用いて数をより普遍的で一般的な形で表していく活動は、真理を愛し、物事を追求していく態度や心をはぐくむことにつながっていくと考える。また、グループで協力して一つの課題に取り組んだり、意見を交換したりする活動は、自他のよさを認め合ったり、他者を思いやったりする心の育成につながっていくと考える。

○考察

- ・具体的な数値から結果を予想し、一般的な形を求めていく中で活発に意見交流し、物事を追求しようという姿勢が見られた。
- ・年度当初は授業中に教え合ったり互いに助け合ったりする姿勢は見られなかったが、グループ活動を重ねる中で授業中に活発に意見を交換したり、助け合ったりする姿勢が見られるようになった。



どんな風に考えた？

オ 国語科の実践（7月11日実施 1学年A組 指導者 田村厚子）

○題材 「星の花が降るころに」 安東 みきえ（単元「つながりを読む」）の第3時

○ねらい 「私」の行動や情景などから、「私」の心情の変化をまとめる。

○道徳とのかかわり 2-(3) 信頼・友情 2-(4) 男女の敬愛

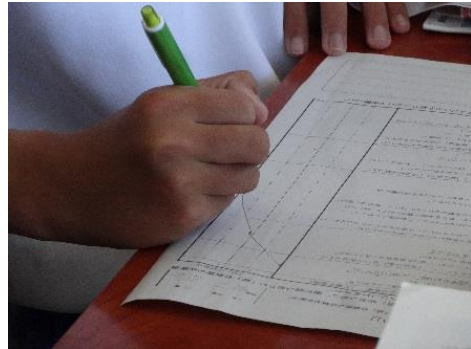
物語の主人公である「私」は、中学に入ってクラスが別になった親友の「夏実」と仲違いの状態になっていた。本時では作品全体を4つに分け、「私」の心情がどう変化しているかを読み取っていく。「夏実」との関係を修復できない中、前を向いて新たな一歩を踏み出す「私」の姿をとらえることが、信頼・友情、男女の敬愛に気付くことにつながると考える。

○考察

- ・生徒の多くは、「私」が元気を出せたのは「戸部くん」が笑わせてくれたからだと考えていた。しかし、「同級生なのに自分より幼いと感じていた戸部君を見直している」「気持ちが上がっているのは、戸部君や、公園を掃除していたおばさんの話が関係している」「私が成長している」「私は戸部君の発言に元気をもらい、さらに、新しい自分に立ち直ろうという思いで銀木屋の木の下をくぐって出た。親友といっても、ずっと続くものではない」などの見方も出された。生徒同士の意見交流で見方を広げることができた。
- ・同級生の成長や変化を認めて、それを受け入れると共に、自分も成長のために新しい関係に向かおうとする「私」の姿から、信頼・友情について考えたり男女の敬愛を知ったりすることができた。



心情の変化を班で話し合う



気持ちの変化をグラフに表す

オ 音楽科の実践（9月4日実施 1学年A組 指導者 福田亜由子）

○題材 いろいろな声で「オリジナルケチャ」をつくろう

○ねらい

- ・リズム創作の前段階として、言葉の重なり of 面白さを感じることができる。
- ・自分たちで言葉や言葉のリズムを考えることができる。

○道徳とのかかわり 4-(4) 集団生活の向上・役割と責任

ケチャは一人ではできない。集団の声が重なり合うことで初めて音楽としての面白さが生まれる。自分たちで考えるオリジナルケチャは、苦手な生徒を配慮してパートを組み、それぞれが自分の役割を果たすことが必要となる。こうした活動の積み重ねは、役割と責任を自覚し、互いに協力し、集団の目標を達成させようとする姿勢につながるものと考えられる。

○考察

- ・4つの班に分かれての活動では、どの班もリーダーシップをとる生徒がいて、他の生徒に気を配って明るく元気に伸び伸び活動していた。
- ・生徒は面白さを感じ、自分たちで話し合っていた。二人にするパートはどこか、誰が何を受け持つか、役割を決めて楽しく発表できたことは集団生活の向上につながるものである。



ケチャのテーマは「スイーツ」



ケチャのパート決め

② 体験活動を生かした道德教育

これまでに行われてきた異校種間交流（幼稚園・小学校・高校）、地域の人材を生かした体験活動（花・光・芸術プロジェクト、尾瀬学校や職場体験などの学校行事）と道德の内容項目とのかかわりを明らかにし、別葉に位置付けた。

全学年共通の振り返り用紙を作り、体験活動を終えるごとに感想を記録させ、生徒の心の変容を見取るようにした。この用紙は、道德のワークシートと共に「心のファイル」に綴じさせ、道德の時間に価値への動機付けとして利用したり、生徒が以前の自分の思いを振り返るときに活用したりした。

ア 花プロジェクト～異校種間交流（第1学年 H25年9月～12月）

○道德とのかかわり 内容項目 4-(5) 勤労・社会への奉仕 3-(1) 生命の尊重

花（パンジー）の栽培活動を通して、生命尊重の精神とボランティア活動に必要な社会奉仕の態度を身に付け、学校や地域社会の活動に生かすことができる。

○生徒の感想

- ・あまり小さい子とのかかわりがなかったので学びました。男の子に抱っこを求められて嬉しかったし、プリキュアの話などをしてくれたので、とても嬉しかったです。このパンジー植えでは高校生に教えてもらっていたけれど、園児の前では自分が教える立場になって、小さな子たちとも遊べたので、すごくいい経験になりました。
(女子)



幼稚園児とパンジーを植える

イ 職場体験（第2学年 H25年9月）

○道德とのかかわり 内容項目 4-(5) 勤労・社会への奉仕

勤労の尊さや意義について考えられるようにすると共に、体験を通して職業についての正しい考え方を育て、公共の福祉に努めようとする態度を育てる。

○生徒の感想

- ・職場体験に行ってすごく感じたことは、お客様に対する優しさです。「薬はこういう向きにした方がいいよ」や、「薬の説明をするときには薬の副作用を説明するのも大切だけれど副作用を伝え過ぎてお客様を不安にさせてはダメだから、適度に説明することが大切なんだよ」など、お客様の気持ちになっている場面を何度も目にして、すごく優しさを感じました。（男子）
- ・いろんな仕事をした中で心に残ったことは、患者さんに食事を食べさせてあげたり手や足を洗ってあげたりすると、皆、「ありがとう」や「気持ちよかったよ」などの言葉を言ってくれます。言われてすごくうれしかったです。そして、「もっとがんばろう」という気持ちが強くなります。これが看護師のやりがいだと、教えてもらいました。職場体験で経験したことをもとに、これからも夢に向かって頑張ります。（女子）



職場で仕事に励む生徒

ウ 光プロジェクト『天文教室』（第3学年 H25年11月、H26年5月・11月）

高山村に位置するぐんま天文台を利用し、毎年『天文教室』を行っている。例年、3年生が11月に天文台に出かけ、月や惑星の観察を行っているが、26年5月は天文台の職員と機材を派遣してもらい、太陽の黒点とプロミネンス、昼の金星を天体望遠鏡で観察した。

○道徳とのかかわり 内容項目 3-(2) 自然愛・畏敬の念

宇宙や天体の不思議さ・美しさに気付き、感動することで、豊かな感性をはぐくむと共に、地球の大きさをはるかにしのぐ宇宙の存在を身近に感じることで、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を抱くきっかけとする。

○生徒の感想（H25年11月）

- ・初めての体験だったのでいろいろ分からなかったけれど、教えてもらったおかげで天体望遠鏡が使えるようになりました。金星や月を見ることができて貴重な体験をすることができました。星はとてもきれいでした。（3年男子）
- ・はくちょう座の頭の星が肉眼で見ると一つだけ、望遠鏡で見ると二つの星が近くにあると分かりすごかったです。スバルも見ることができたので興奮しました。（3年男子）
- ・一番光っていた金星も月のような形をしていることが分かり、太陽の力はすごいなと思いました。（3年女子）



金星を観察する（H26年5月）

エ 芸術プロジェクト『書き初め』（全学年 H26年1月実施）

指導者 田村厚子 外部講師 木村朝次郎氏

○道徳とのかかわり 内容項目 4-(9) 愛国心・伝統の継承と文化の創造

伝統的な年中行事である書き初めの学習は、日本の伝統や文化、特に文字文化について改めて関心や理解を深めることができる。地域の書家に指導を受けることで、いっそう意欲的に学習に臨むことができると期待され、国を愛し、優れた伝統の継承に努める心につながる。

○生徒の感想

- ・木村先生にポイントを教えてもらい、清書の紙で書いたら3枚のうち1枚が上手に書けました。「書き初めは楽しいな」と思いました。これを習字で生かしていきたいです。（1年女子）
- ・昔の人はたくさん書いていたけれど、今となっては鉛筆やシャープペンシルなどの筆記用具を使って書いているから難しかったです。書道や書き初めは、昔のことも知れる気がしました。（2年女子）
- ・見本と自分の字を見比べて何度も練習しました。だんだん行書に慣れてきて上手く書けるようになりました。中学生で習字をするのは最後になると思ったので、最後の最後まで書き続けました。よい作品に仕上がったかなと思います。（3年男子）



地域の書家 木村先生

(6) 家庭・地域との連携

① 講演会の実施 命を育む講座「生きてるだけで百点満点」(H25年11月)

講師 鈴木せい子先生

○道徳とのかかわり 内容項目 3-(1) 生命の尊重

命は尊いものであると理解できるが、日常生活では実感する機会がほとんどない。新しい命が誕生する現場で長年働いてきた助産師の方から話を聞くことで、自分の命も、他人の命も尊いものであることを心から実感することができる。赤ちゃん誕生を待ち望んでいても失ってしまう場合があることや誰もが両親から愛されてこの世に誕生してきたことを知ること、この世に誕生してきた自分への自信と自分を大切にしようとする思いを強くもつことができる。保護者と共に講演を聴くことで、生徒は、生命の尊さを再認識し、今後かけがえのない自他の生命を尊重しようとする気持ちを持ち、保護者は子どもを授かったときの思いを想起することができる。

○生徒の感想 →Ⅳ(2)生徒の変容と取組の有効性(53ページ)に示す。



真剣に話を聴く生徒と保護者



生まれたときの気持ちは？



生まれるときの呼吸体験

② 家庭・地域への啓発

本校の道徳教育の取組を一枚のリーフレットにまとめ(次ページに掲載)、平成26年3月、高山村全戸に配布した。子どもたちに望ましい道徳性をはぐくむため、家庭・地域・学校が思いや願いを共有し育てていくことへの協力をお願いした。また、公開授業日には全学級が積極的に道徳を公開し、保護者・地域の教育関係者に学校の道徳の時間を参観してもらうと共に、道徳の時間の学習の様子を学級通信で紹介した。

2013

自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒



笑顔あふれ 歌声響き 花いっぱい 高山中学校

高山村立高山中学校
2014年2月

- 1 -

高山中学校の道徳教育への取組

高山中学校では、平成25・26年度の2年間、文部科学省の指定を受け、道徳教育総合支援事業に取り組んでいます。明るく、かしこく、たくましい高山っ子を目指し、**自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒を育成**するために、家庭、地域、学校で連携を深めていきたいと思います。



- 2 -

道徳授業の充実



「思いやり」に関する授業の様子 1年生

授業後の感想

○自然に、あたりまえのことをやっているかのように相手を取る言葉をかけたり、行動をしろたいと思いました。(女子)
○やってあげたいと思う気持ちだけではなく、自分も行動に表せるようにしたいと思いました。(女子)
○困っている人がいたら、「大丈夫ですか。」とやさしく言ったり、人に会ったら「おはようございます。」「こんにちは。」「こんばんは。」と元気よく言ったりすることを心がけています。(男子)

授業後の感想から、身近な小さなことから実践していこうという姿勢や、すでに実践している様子が聞えます。

講演会の実施



生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する気持ちを育みます。

講演会の感想

○自分の生きる能力のすごさや家族から大切にされているんだということを感じ、特別な何かを持っていくなくても、自分に誇りを持って前向きに生きていくことが大切なことだと感じることができました。(1年女子)
○私の親も、大変な思いで私を育ててきてくれたことに気づき、「育ててくれてありがとう。」と感謝の気持ちをもちました。(2年女子)
○子供を産んだ時の親の苦労と責任が伝わってきました。育児放棄をするような親にはならないように生きていきたいです。向かってくる壁を一つ一つ乗り越えて生きていこうと思います。(3年男子)

体験活動の充実

「地域の自然・教育施設・人材を生かした体験活動」

草花の栽培、絵画教室、映画鑑賞、演劇、合唱、天文教室など、地域の自然や美しい景観、教育関連施設、人材を生かした体験的な活動に取り組んでいます。これらの活動を通して、地域の力から謙虚に学ぶ姿勢、自然の不思議さや美しいものに感動する心を育み、生徒の道徳性を育成しています。

パンジー植え

さわやかあいさつ運動



ご家庭や地域の皆様をお願いしたいこと

子どもたちの望ましい道徳性は、学校だけで育てられるものではありません。ご家庭や地域の皆様と願いを共有しながら、心豊かに育つ高山の子どもたちを育てていきたいと考えております。皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いします。



地域

- ・あいさつ、声かけ
- ・職場体験、廃品回収、奉仕活動
- ・地域の伝統行事

家庭

- ・「学びと生活の約束」の実践
- ・家庭でのしつけ(率先垂範)
- ・家庭での役割分担(お手伝い)
- ・ふれあいの時間(楽しい会話)

学校

- ・道徳の授業の充実
- ・体験的な活動の充実
- ・命に関する集会や講演会の実施

豊かな人間性

- 3 -

- 4 -



授業実践事例

Ⅲ 授業実践事例

※H25年度の指導案は研究段階のため形式が統一されていません。授業を行ったときのまま実践順に掲載します。

【H25 授業実践事例—1】

1 道德の授業実践事例 1（9月30日実施 指導者 佐藤俊宏）

(1) 「視覚に訴える資料提示を取り入れた道德の授業」（第1学年）

① 子どもの実態

学級活動で校内体育大会の陸上競技種目の選手を立候補や互選で決めさせた際、友達の健康面や体力面に配慮し、出場種目を進んで交代してくれる生徒がいた。また、体育大会の応援合戦を通して、立場の弱い子も同じ仲間として大切にできるようになり、相手を思う気持ちは少しずつ育ってきていると感じている。しかし、自分が出場したい種目を主張するばかりの生徒もおり、相手の気持ちを考えて行動として表そうとする態度を養うには、今後も道德の時間や様々な学習活動の中で意図して指導していく必要がある。

② 授業者の思い

生徒はこれまでの生活の中で、友達などから思いやりを受けたこともあれば、逆に他の人を思いやる経験ももっており、思いやりの大切さやありがたさ、温かさを十分知っている。しかし、中学生の時期は、人前で思いやりを示すことに恥じらいやかっこ悪さを感じたり、相手のことを考えずに自己中心的な行動をとってしまったりする時期である。本題材を通して、これまで本校の教育活動全体を通して進めてきた思いやりの指導をさらに深め、思いやりの心を行動に表そうとする態度を養うことは、この時期の生徒にとって重要であると考えます。

③ 指導のポイント

- 読み物資料を分割して提示する。資料の前半では、毎日一人で「遠い旗」を眺めている少女のことを知った級友がどんな思いを抱いたか着目させる。
- 資料の後半では、少女の布きれをクラス旗の真ん中にした理由や、少女が登校する前に窓から見えるようクラス旗を掲げた理由に視点を当て、3～4名のグループでの話し合いを通して、少女に対するクラスメートの思いを深く考えさせる。
- 展開の最後で思いやりをどのように表したいかを考えさせ、思いやりを行動に表そうとする態度を養う。
- 終末では、思いやりに関わる映像と詩を用い、思いやりの心を行動に表そうとする心情をはぐくむ。

(2) 学習指導案

- ① 主題名 「思いやりを行動に」 内容項目 2-(2) 思いやり
- ② ねらい 相手の立場や気持ちを考え、他の人への思いやりを行動に表そうとする態度を養う。
- ③ 資料名 「旗」（出典 光村図書 中学道德① きみが いちばん ひかるとき）
- ④ 資料の概要

転校してすぐに事故に遭い、自宅で一人療養を続けている少女は、ある時、遠くに黄色い旗が翻っていることに気付く。毎日その旗を眺めるのが少女の心のよりどころになっていたと知ったクラスメートは、クラス旗を作り、交換して掲げる。翌日、少女が登校すると、少女は拍手で迎えられる。そして、自分のためにクラスメートが旗を作り、掲げてくれたことを知る。クラスメートがどのような思いで旗を作り、掲げたのかを考えさせることで、思いやりの心を行動に表そうとする心情をはぐくむことができる資料である。



中心発問とその視点を掲げる

⑤ 展開の概要

過程	学習活動	時間	主な発問 (□ は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点 及び支援の工夫
導入	1. 思いやりに関する事前アンケートの結果を見る	3分	アンケートの結果をみてください ・他の子はそんなふうにされたことがあるんだ ・自分も同じようなことをされたことがあるな	・事前アンケートの結果を見せることで、興味・関心を高める
展開	2. 資料を読み、少女に対するクラスの友達の思いをとらえ、思いやりを行動に表すことの大切さを考える ①資料前半を読み、級友が少女に抱いた思いを考える 【人間理解】	15分	「遠い旗」を眺めていた少女に、訪ねてきた級友はどのような思いを抱いたのだろう ・旗が友達なんてさびしすぎるし、私たちも友達だって伝えたい ・そんなさびしい思いをしていたんだ ・来なくて悪かったな。ごめんね ・何とかして元気付けたいな	・内容を確実にとらえられるよう、資料を分割し付録のCDを聞かせる ・級友が抱いた思いを考えられるよう、少女の孤独さを押さえる ・「遠い旗」という表現に注目させ、遠いところにある旗だけが友達だという少女の思いに気付いた級友が何を思ったのか想像させる
	②資料後半を読み、クラスメートの思いを考える 【他者理解】 【価値理解】	20分	クラスメートたちは、どのような思いでクラス旗を掲げたのだろう ・1人じゃないよ。元気出して ・友達旗だけでなく私たちがいるよ、ということを伝えよう ・勇気付けたい ・（少女の布きれを真ん中に置いて）みんなであなただのことを考えているよ、ということを伝えたい	・グループ内で意見交流させることでクラス旗に込められた多様な思いやりの心に触れられるようにする ・話し合いの内容をメモさせ、発表をスムーズに行えるようにする ・少女の布きれを真ん中にした理由、少女が登校する前にあの窓から見えるようクラス旗を掲げた理由について考えさせ、クラスメートの思いを想像させる
	3. 自分は思いやりの心をどのようにして表していきたいか考える 【自己理解】	8分	あなたはこれから思いやりの心をどのように表そうと思いますか ・ただ思うだけでなく、実際に行動して表す ・相手の立場や気持ちを考えて行動する	・今後、思いやりをどのように表したいか考えさせることで、思いやりを行動に表そうとする態度を養う
終末	4. DVDを見た後、教師が読む詩を聞き、価値についての心情を深める	4分	東日本大震災の後に流れていたCMを紹介します （視聴後）このCMで使われていた言葉の元となった詩を紹介します	・詩を読み、余韻を残すことで、実践への意欲を高めたい

(3) 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

T：「クラスメートたちはどのような思いで旗を掲げたんだろうということについて、ワークシートに考えを書いてください」

T：「なぜ、少女の旗を真ん中にしたのか、なぜ、登校する前に掲げたのだろう、という2つの視点で書いてください」
（生徒ワークシートに記入）

T：「この後グループになって、僕はこんなふうに思う、私はこんなふうに思うということ話し合い、考えをふくらませてください」
（グループでの話し合い）

T：「では、わずかな時間ですが全体で共有したいと思います。どうぞ、C1さん」

C1：「私たちの班では、クラス旗を掲げたことについて意見を交換しました。さらに、どうして掲げたのかという意見で、登校してしまったら父親が屋上を貸してくれない、窓を見なくなってしまう、怪我で学校に来ることができなくても少女はクラスの一員だということを教えて、学校へ来る元気を出してほしかったからという意見が出ました」

T：「はい、ちょっとそこまで。C1さんありがとう」

T：「少女はクラスの一員なんだという言葉が出ましたけれど、そんな考えが出たところがありましたか？」→（数名が挙手）

T：「C1さん続きを」

C1：「どうして真ん中なのかということに対しては、いつも一人で大変だったし、元気を出してほしいという意見が出ました」

T：「元気を出してほしかったんだよ。同じ意見の人？」→（2つの班の生徒が挙手）

T：「C1さん続きを」

C1：「人の意見を聞いて、窓を見なくなれば寂しさを紛らわしていた存在を忘れてしまう。クラスの一員を再確認できたという意見が出ました」

T：「ほかにありますか？はい、C2さん」

C2：「私たちの班では、どうして登校する前に旗を掲げたのかということについて話し合いました。次の日は、少女が学校に来る日なので、その旗を見てきてほしいという意見が多数出ました。さらに、なぜ少女に対する気持ちが強いのかということについて話し合いました。それは、事故に遭ってしまったので皆で励ましてあげたかったから、少女に対する気持ちが強かったということが分かりました」



少人数グループでの話し合い



終末 思いやりのCMビデオに耳を傾ける生徒

(4) 考察

授業後の分析では、「資料提示の仕方」「発問の仕方・内容」「自己決定」の視点から、次のように分析した。(○は成果 △は課題 ☆は改善策)

①「資料提示の仕方」について

○資料を前半、後半に分けて提示したことは、長い資料の内容を把握する上で役立った。朗読CDを活用したことも、場面の状況把握に効果的であった。

○終末でCM映像を流したり教師がフラッシュカードを提示しながら詩を朗読したりしたことは、思いやりを行動に表すという本時の道徳的価値を生徒の心に印象付ける役割を果たした。

☆黒板には生徒の考えをもとにまとめていき、本時の学習を振り返る上で活用させたい。

②「発問の工夫」について

☆中心発問について考える際に提示した2つの視点について、今回は事前に提示し考えさせたが、生徒の発表を受けて切り返し発問として投げかけた方が、より意見交流が活発となり、考えが深められるのではないかと考えた。

③「自己決定」について

○中心発問について、全員がワークシートに自分の考えを書くことができ、少人数のグループでの意見交流では、自分の考えを友達に伝えることができた。また、司会となった生徒は、友達の考えを引き出そうとよく働きかけていた。

☆集団交流の場面では、限られた生徒の考えだけでなく、全員に意思表示させる手立てを考えていく。

【H25 授業実践事例ー2】

2 道徳の授業実践事例2 (12月9日実施 授業者 奈良達也)

(1)「道徳的心情の理解を深める発問構成の工夫」(第3学年)

① 子どもの実態

仲間の気持ちを考えられる生徒、優しさや良心をもっている生徒が多いが、中学3年生としての自覚が十分とは言えない。中学3年生は自分自身の心の中に弱さや醜さがあることに気付くと同時に、それを克服する強さをもつことの必要性に気付くことができる時期である。しかし、なかなか自分に自信をもてなかったり、苦しいことを正面から乗り越える勇気がもてなかったりする現状がある。そこで、自分を奮い立たせて強く気高く、誇りある生き方を目指すことの大切さに気付かせると共に夢や希望など喜びのある生き方を見出させていくことが大切である。

② 授業者の思い

人間には誰しも誘惑に負けたり、楽な方に流れてしまう弱さがあり、ときには、結果としてその弱さに流された行動をとってしまうことがある。しかし、良心や自身の生き方への誇りによって、弱さや醜さを克服した強く気高い生き方を選択できるようになっていくはずである。生徒たちには人間の心に潜む弱さ・醜さと、強さ・気高さの二面性に気づき、よりよい生き方、強く気高い生き方を選択できるようになっていってほしい。本時の授業を通して、主人公の気持ちに触れ、弱さを克服していく姿を学びとることで道徳の実践力の育成を図りたいと考えた。

③ 指導のポイント

○本時の導入では本時の主題を知る足がかりとして「心の弱さ」をキーワードに質問し、心の弱さは誰にでもあることを確認させる。

○中心発問は、筆者にとっての転機となった橋の上の場面で、筆者が考えていたことを問うものにする。道徳的心情を理解する力を高めていくことがねらいである。また、この中心発問を最初に投げかけ、そこで得られた生徒の意見をもとに、時間を遡って問題場面や事象についての話し合いを行う。

○あとの展開を考えて中心発問については最初に黒板中央に板書し、過去の場面とその後

の場面とを橋を挟んで配置することで視覚的に対比できるようにする。

- 補助発問を通して筆者の心情に迫った後でもう一度中心発問について考えさせ、道徳的価値の理解に迫る。この場面では特に全員が記入できるまでしっかりと時間をとって考えさせる。併せて友達の考えを聞くことで他者理解にもつなげていく。このとき、同様の考えには挙手させるなどして、一人一人の自己決定を確認する。
- 終末では、自分の行為や経験に目を向けさせ、よりよい生き方について自覚させることで自己理解につなげる。

(2) 学習指導案

① 主題名 「人間の心の美しさ」

内容項目 3-(3) 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び

② ねらい 人間には弱さとそれを克服しようとする強さ、気高さがあることを知り、よりよい自分、よりよい生き方を目指そうとする態度を育てる。

③ 資料名 「足袋の季節」

(出典 光村図書 中学道徳③ きみが いちばん ひかるとき)

④ 資料の概要

本資料は、今の中学生と同年代の少年が寒さに耐えかねて、大福餅を売るおばあさんから釣銭をごまかしとってしまう回想から始まる。良心の呵責に苛まれつつも直接おばあさんに謝ることのできなかった主人公であったが、数年後初月給をもらった後で再びおばあさんを訪ねる。ところがすでにおばあさんは他界、おばあさんとは会えずじまいになってしまう。そのことへの後悔の念と釣銭を渡してくれた際のおばあさんの目が今の筆者を支えていることが、筆者の視点で描かれた物語文である。

⑤ 展開の概要

過程	学習活動	時間	主な発問 (は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点 及び支援の工夫
導入	1. 「心の弱さ」というキーワードに触れ、価値への方向付けを行う ＜価値理解＞	5分	自分の心に弱さを感じることはありますか。どれかに手を挙げてください (よくある・たまにある・あまりない・全くない・分からない) あるという人、それはどのような時ですか ・テスト前にあまり勉強しなかった時 ・マラソン大会で気持ちに負けた時 ・朝、早起きができなかった時	・全員が質問に回答できるように、「分からない」を含め、5つの選択肢から挙手させる ・ポイントのみを押さえ、早めに資料に入る
展開	2. 資料を読み、おばあさんの死に直面した筆者の心情を推し量る ＜価値理解＞	15分	資料を範読し、ワークシートを配布する。 おばあさんの他界を知った筆者はどのようなことを考えて果物かごを色内川に流したのだろうか ・自分に腹が立ってしょうがなかった ・今の自分がいるのはおばあさんのおかげなのでどうしてもお礼を言いたかった 「自分に腹が立ってしょうがなかった」という意見がでましたが、自分のどんなことに腹を立てていたのでしょうか ・おばあさんをだまして四十銭をかすめ取ったこと ・おばあさんに会おうと小樽局を訪ねたのが遅すぎたこと	・ワークシートには絵と吹き出しを利用して人物の心情に迫りやすくする ・よい意見を把握し、指名して紹介する ・黒板中央に板書 ・出された意見の中に「自分に腹を立てた」というキーワードを見出し、それを次の質問に結び付けていく

	3. 過去の場面とその後の場面とを対比させ、筆者が心の中に弱さ醜さと強さ気高さを併せ持ち、その様子に変化していくことに気付く ＜価値理解＞ ＜人間理解＞	10分	「五十銭玉だったね」というおばあさんの問いかけに「うん」と頷いてしまったことに対して腹を立てているだろうか ・自分の甘さや弱さに腹を立てている ・その後、正直に謝らなかったことを後悔し、腹を立てている 筆者はなぜ今回のような形でおばあさんとの再会を果たそうとしたのだろうか ・一人前になった姿を見てほしかった ・なかなかおばあさんに謝りに行く勇気が持てなかった 橋の上で泣けて泣けてどうしようもなかった筆者ですが、その後どのように生きていこうとしていると思いますか ・誰かに親切にしていこうとしている ・強く正しく生きていこうとしている	・筆者は決して軽い気持ちで「うん」と頷いたわけでないことやその後自責の念に駆られていることに注目させる ・一見素晴らしい行動のように見えるが、あくまで自分の都合に合わせて行動していることに注目させる ・橋を挟んで過去と現在を視覚的に対比できるよう板書する ・キーワード「醜さ」「気高さ」を板書
	4. 筆者の転機となった橋の上での場面にもう一度思いをめぐらせる ＜価値理解＞ ＜他者理解＞	10分	再び同じ質問について考える おばあさんの他界を知った筆者はどのようなことを考えて果物かごを色内川に流したのだろうか ・今までの自分の弱さや醜さに気付き、決別しようとしている ・自分の弱さに腹を立て後悔しているけれど、同時に新たな自分への一歩を踏み出そうとしている ・もう届けられないおばあさんへの謝罪の気持ちを果物かごに込めて川へ流した	・全員が記入できるまで時間をとって考えさせる ・出された意見を最初の意見と合わせてまとめていく。自分と近い意見について挙手させるなどし、全員の生徒に意志の決定と表示をさせる
終末	5. 筆者の生き方を参考に心の中に潜む弱さと気高さの二面性に気付くとともに、弱さや醜さをどう乗り越えていくか考える ＜価値理解＞ ＜自己理解＞	10分	筆者の生き方を知り、あなたはどのように生きていきたいと思いますか ・後悔のないように正直に生きていきたい ・人に感謝の気持ちを伝えられる人になりたい ・嘘をついたまま生きていくのは嫌だ ・自分の心の弱さに負けてしまうことがあるかもしれないが、よく考えて行動を正していきたい	・ワークシートに各自記述させる ・筆者は少年時代も弱さ・醜さだけでなく強さ・気高さももっていたことに気付かせ、筆者が橋を渡った瞬間のような一瞬が自分にもあるのではないかと投げかける

(3) 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

T：「おばあさんの他界を知った筆者は、どのようなことを考えて果物かごを橋から流してしまったのか。少し想像してみてください」

T：「今日はこの質問について、よく考えていきます。言ってくれる人はいますか」

C1：「果物かごを渡すこともおばあさんに謝ることもできなかった自分のふがいなさに苛立っている」

C2：「自分に腹が立って仕方がない」

T：「これ（C1の意見）に似ているなっていう人、いる？」→（数名が挙手）

T：「これ（C2の意見）に似ているなっていう人、いる？」→（数名が挙手）

（この後、過去の場面とその後の場面を対比させ筆者の心の様子の変化を推し量り、再度橋の上の場面に思いを巡らせる）

T：「この橋の場面、橋の前と後を比べてみてください。もう一度同じ質問です。筆者は、どんなことを考えて果物かごを川に流したのだろうか。この前と後の筆者の心の動きをヒントに考えていくと、最初に書けなかったことがいろいろ浮かんでくるので

はないですか。さあ、初め書けなかった人も考えて書いてみてください」

T : 「さあ、書けたかな？」

C 3 : 「おばあさんの気持ちなどを考えずに自分の思ったことや感じたことを中心に行動してしまっていたことについて、おばあさんに申し訳ない」

T : 「自分の身勝手さや弱さに気付いたんだね。そして申し訳なくなった」

C 4 : 「自分の心の弱さや都合によって何もできなかった自分が悔しくて変わりたいと思った」

T : 「今出てきたことをまとめていくと、申し訳ない気持ちと自分が変わりたい気持ち」

T : 「腹が立ってしょうがないという気持ち。これ、あると思う人」→ (数名が挙手)

T : 「申し訳ないなという気持ち」→ (数名が挙手)

T : 「自分が変わりたいんだという気持ちがあると思う人」→ (多数が挙手)

T : 「これ増えましたね。一つには、腹が立ってしょうがない、申し訳ない、でも自分も変わりたいという部分が見えてきました」

(筆者の生き方を知り、どのように生きていきたいかをまとめる)



自己決定の場

(4) 考察

授業後、「資料提示の仕方」「発問の仕方・内容」「自己決定」の3つの視点から、次のように分析した。(○は成果 △は課題 ☆は改善策)

①「資料提示の仕方」について

○場面ごとの登場人物の姿や、中心人物(筆者)の心情の転機となった橋の絵(赤色)を黒板に提示した。筆者の心情を吹き出しで板書したことは、場面ごとに筆者の心情をつかむ上でも、後から振り返る上でも有効であった。

○中心発問を黒板の中央に提示したことは、黒板の右側と左側に資料の内容の時間的な経過を示すことにつながり、生徒が筆者の思いの変化を比較しながら考えるのに有効であった。

②「発問の仕方・内容」について

○中心発問から展開し、同じ発問を授業の後半でもう一度繰り返して考えさせた。同じ質問に、生徒は真剣に考え、初めと異なる意見を書いた生徒が多数いた。この方法は、生徒の集中力を高め、価値理解を深める手立てとして有効であった。

△人間の持つ「気高さ」を引き出すための発問の多用は、授業を教師主導の流れにしてしまう危険がある。

☆発問数を抑えて、生徒同士の意見交流がなされる活動を考えておく必要がある。



授業研究会

③「自己決定」について

- ワークシートに質問文を載せず、生徒に同じ中心発問について二度、自分の考えを記入させた。ワークシートの使用を工夫したことは、自分の考えをもつ意欲や、学習の達成感をもつことにつながった。
- 生徒から出されたいくつかの意見を使って、自分の考えはどれに当てはまるのか挙手させるのも自己決定の一つの方法であろう。ただし、生徒全員の挙手を促す必要がある。



部会別発表



模擬授業の様子

【H25 授業実践事例－3】

3 道徳の授業実践事例3（1月27日実施 指導者 高田優樹）

（1）「道徳的心情の理解を中心とした発問の工夫」（第2学年）

① 子どもの実態

事前アンケート調査より、全生徒が他者から思いやりのある行為を受けたことがあり、他者を思いやる行動をしたことがあることがわかった。しかし、行動の内容に関しては、「物をくれた」や「頼まれたことをする」といった、物々交換や消極的な活動として現れていることがわかった。また、担任の観察より、高原学校や体育祭、文化祭において、仲間と協力したり、助け合ったりと他者を思いやる行動をさり気なくしている様子が見られる。しかし、日常生活の中では、特定の人間関係の中で思いやる気持ちが表れる傾向がある。また、相手のことを考えた行動を意識していても、恥じらいの気持ちや面倒くさいといった自己中心的な気持ちにより、行動へ移せないでいる様子が見られる。

以上のことにより、本題材の主人公の気持ちに寄り添い、他者を思いやる気持ちの大切さを学ぶことは、本学級の生徒にとって必要と考える。

② 授業者の思い

人間は、人とかかわりの中で互いを思いやる心を養い、助け合って生活している。思いやりの心には多様な形があり、親切やいたわり、励ましといった形で現れるものや、言葉にはせず、温かく見守る形もある。どちらにせよ、単なる哀れみとは違い、相手の思いにふれ、相手の思いに寄り添う中で発揮される心情である。しかし、時に人は自己中心的になったり、他を省みない行動に走ってしまったりするなど、思いやりの心を見失ってしまうことがある。生徒たちには、相手の気持ちに寄り添い生きていける人間になってほしい。本時の授業で、主人公の思いにふれたり主人公に成り代わって気持ちを表現したりし、

思いやりの心の温かさやすばらしさを学ぶことで道徳的実践力の育成を図りたい。

③ 指導のポイント

- 朝読書の時間に資料を読ませ、資料の内容の理解を深めておく。
- 資料に描かれた場面や、源さんと一郎の状況を整理した模造紙を提示し、資料の内容をとらえやすくする。
- 教師が資料を読む際、生徒に、源さんが一郎を気遣い心配する気持ちが表れている表現にラインを引かせ、源さんの一郎への思いを押さえられるようにする。
- 中心発問では、郵便局員として手紙を開封することの意味や手紙の本来の処理の仕方に触れ、源さんの行動に含まれる気持ちの重みを考えられるようにする。
- 手紙を拡大図で提示し、「墓への地図」であることをとらえやすくすると共に、補助発問で手紙に含まれる思いに触れることで、一郎にとっても特別な手紙であることを理解させる。
- 個人で考える時間を十分に確保し、全員が自分なりの考えをもてるようにする。次に、3～4名の小グループ及び、学級全体での意見交流を通じ、様々な思いやりのとらえ方があることを知り、自分の考えを深めることができるようにする。
- 自分の考えを書き表すことが苦手な生徒には、机間支援の中で例を与え、思考の手助けをする。逆に、素早く個人の考えをもてた生徒には、他の思いも考えられるか問いかけ、深く考えられるようにする。
- グループでの意見交換において、同じような意見である場合は、他の班の意見を紹介したり、多様な視点を与えたりして、源さんの思いに対する考えを深められるようにする。
- 終末では源さんの気持ちになって一郎への思いを手紙に表すことで、自己とのかかわりで道徳的価値をとらえ、ねらいとする価値について自覚を深めることができるようにする。

(2) 学習指導案

- ① 主題名 「思いやる心」 内容項目 2-(2) 人間愛、思いやりの心
- ② ねらい 自分より相手の思いを優先させるほどの優しさに触れ、相手の気持ちを考えようとする態度を育てる。
- ③ 資料名 「地図のある手紙」
(出典 日本文教出版 中学校道徳 あすを生きる②)

④ 資料の概要

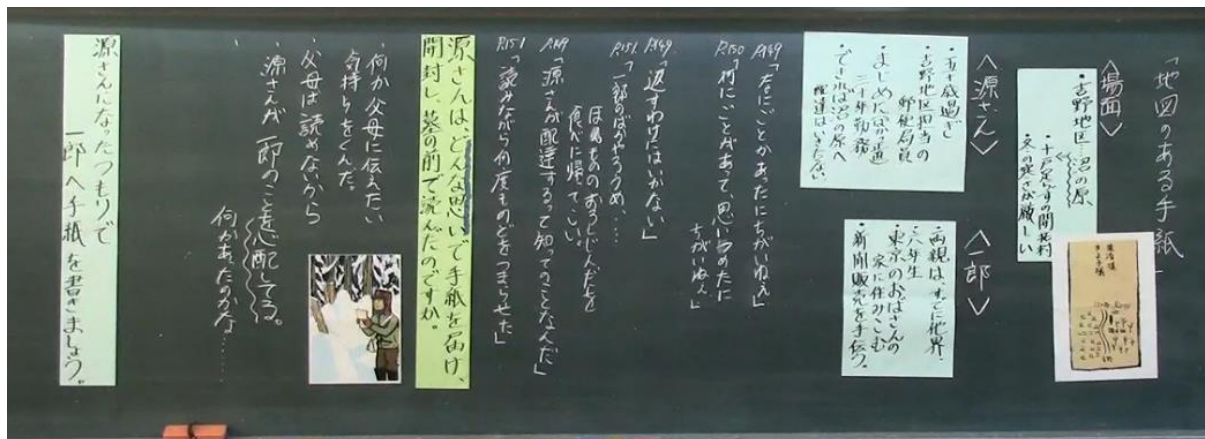
本資料は、両親を亡くし、今は東京での生活を余儀なくされた一郎からの手紙をもとに、源さんの心の揺れを描いた作品である。両親の墓地があて先であり、その場所に至る地図も記載してある手紙。雪深い山道を歩いて行かなければならない仕事に対する義務感とは裏腹に一郎の現在の心境を思いやり、その封を切り両親の墓地の前で読み上げる源さん。仕事は仕事と割り切れない源さんの人間としての生き方が色濃く出ている作品である。

⑤ 展開の概要

過程	学習活動	時間	主な発問（ は中心発問） ・予想される生徒の反応	指導上の留意点 及び支援の工夫
導入	1. 資料を読み、源さんが一郎を気遣う部分に傍線を引く	20分	源さんが一郎を気遣う気持ちが表れている表現は、どこですか ・「なにごとかあったにちがいねえ」 ・「一郎からの手紙を返すわけにはいかない」 ・一服せずに、沼の原の方へ向かって急いだ。 ・「思いつめたにちがいねえ」 ・「あいつも苦労してるださあ・・・」 ・額の汗と涙を一緒にふいた ・「ほんもののおろしじんだを食いにけえってこい」	・資料を読む前に「資料の場面」「登場人物の状況」を整理した模造紙を提示し、資料の内容を押さえる ・墓への地図を提示し、一郎の源さんに期待する思いを押さえる

	・ところどころインクがにじんでぼやけていた ↓ 「一郎を心配する気持ち」	・発問に該当する部分に線を引かせながら、資料を聞かせることで、源さんが一郎を心配する気持ちを押さえる
展開 2. 源さんの行動に含まれる思いを考える。 ① 個人で思いを考える (5分) ② グループで意見交流をする (10分) ③ 学級全体で意見交換をする (5分)	20分 源さんは、どのような思いで、手紙を届け、開封し墓の前で読んだのですか ・赤ん坊から抱いてあげた一郎の手紙で、届けなくてはいけないという親心から ・死んだ両親への手紙であり、何かを伝えたいという切実な一郎の気持ちを感じたから ・手紙に墓の地図まであり、一郎の手紙を届けることへの期待を感じたから ・手紙は、死んだ両親には読めないと思ったから ・郵便局員として、郵便の開封をしてはいけないことと知っているが、一郎の気持ちを尊重してあげたい ・一郎を心配する思いがとらせた行動 ・東京で懸命に生活する一郎に対する優しさ	・郵便局員の手紙の開封や不備のある手紙の処理方法に触れ、源さんの強い思いが行動に表れていることを押さえる ・意見が書けない生徒には、教師が例を与え、思考の手助けをする ・グループ内で同様の意見である場合は、多面的な視点を与え、思考を深められるようにする
終末 3. 本時の授業を受け、主人公の気持ちになり、一郎宛の手紙を書く	10分 源さんは手紙を読んだ後日、一郎に向けて手紙を書きます。源さんになったつもりで手紙の内容を考えましょう ・手紙ちゃんと読んだぞ。元気に頑張れや ・一郎、いつでも帰ってこい。一度墓にも行け。そして、本物のおろしじんだ食わせてやるぞ ・東京の生活は大変か？頑張れよ。応援しているぞ ・また、いつでも手紙よこせよ。必ず届けてやるからな	・主人公の気持ちになり、一郎への思いを手紙にすることで、自己との関わりでねらいとする価値についてとらえ、意識を深めることができるようにする

(3) 実際の板書



(4) 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

T：「考える前に、皆さんに聞きたいと思います。手紙を送る相手が亡くなっていた場合、その手紙はどうすると思いますか」

C1：「手紙を出した人に送り返す」

T：「そうです。郵便局員の源さんが手紙を開封したね。それは郵便局員として、してもよいことですか」

C2：「いけない」

T：「そう、いけないんだね。でも、そうまでして源さんは、手紙を開封してお墓の前で読みました。その行為の中に含まれている気持ちをワークシートの吹き出しに書いてください」

（各自、ワークシートに記入する。教師は机間支援）

T：「それではグループになって、自分の意見を発表してください。友達の意見を聞いて、参考になることや付け足しがあったら、ワークシートの吹き出しの左側に書いてください」（グループで意見交流をする）

T：「出てきた意見を発表してください」

C3：「149ページの死人が読めるわけではないし、地図まで書いたのは、源さんが配達するのを知っていてよこしたのだから、何か伝えたいメッセージがあるんじゃないかな」

T：「誰に伝えたいの」

C4：「一郎が、亡くなった両親に伝えたいという気持ちを、源さんがくんだと思う」

C5：「一郎の両親は亡くなっていて手紙が読めないから、代わりに読んであげたと思う」

C6：「源さんは一郎のことを心配しているから、一郎に何かあったのかなと思って」

T：「これまでに出了ように、一郎が両親に伝えたいことがある、と書いてくれた人がたくさんいました。また、源さんが一郎のことを心配して、届けないわけにはいかない、ということを書いた人もいました」

T：「さあ、今までのことを踏まえ、最後に、源さんになったつもりで、一郎に手紙を書いてください。話合いの意見も参考にして」

（各自、一郎に宛てて手紙を書く。教師は机間支援をする）



友達との意見交流

(5) 考察（○は成果 △は課題 ☆は改善策）

①「資料提示の仕方」について

○ワークシートについて、吹き出しや手紙形式の表現方法は、生徒の考えを引き出すのに効果的であった。また、意見の修正欄があり、生徒の考え方の変化が分かった。

○事前に生徒に一度読ませ、教師が読み聞かせる前に視点を与え、源さんの心情が表れている部分に線を引かせながら聞かせたことは、中心発問を考えたときの根拠として有効であった。

△時間配分から見ると適切だったか、検討する必要がある。

☆映像の資料など、吹雪の大変な状況を示してもよいのではないか。

②「発問の仕方・内容」について

○発問を絞ったので、生徒がじっくりと考え、自分の意見を書く時間を保証することができた。自分の意見がなかなか書けない生徒へ、教師は丁寧に個別支援することができた。

☆発問の内容が道徳的心情に集中してしまったので、道徳的判断力や道徳的实践意欲に結びつく発問を終末に入れる必要がある。

③「自己決定」について

○人のためにより良い生き方をしていこうとする生徒が多かった。

☆机間支援をして、生徒の考えを把握した上で、意図的に指名し発表させることで集団交流を図りたい。

【H26 授業実践事例－1】

補 充 を意図した道德の時間

主題名「かけがえのない生命を精一杯生きる」

内容項目 3－(1) 自他の生命の尊重

平成26年6月30日実施

第3学年A組21名 指導者 鈴木雅弥

1 ねらい 生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする道德的実践意欲を培う。

2 資料名 キミばあちゃんの椿（出典 文部科学省 私たちの道德）

3 主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道德的価値について《価値観》

生命は、かけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にこたえようとする心の現れといえる。

自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることである。生きていることの有り難さに深く思いを寄せることは、必ずや自己以外の生命をも同様に大切にすることははずだという期待があるからである。

中学生の時期は、比較的健康に毎日を過ごせる場合が多いためか、自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさ心に揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのためか、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。

自分が今ここにいることの不思議、生命にいつか終わりがあること、生命とその精神はずっとつながっていることなどを手掛かりに考えさせ、自らの生命の大切さを深く自覚させる。

(2) 生徒の実態《生徒観》

自他の生命を尊重する心を育てるため、学校教育全体で以下のような指導を行っている。

① 道德の時間における指導

2学年では、「最後のパートナー」「ハゲワシと少女」を道德の時間の資料として、生命の「連続性」「有限性」「偶然性」についてふれながら自他の生命の尊重について考えた。

② 各教科等での指導

ア 理科

1・2年の理科において、動物と植物の体のつくりや仕組みについて学んできた。また、生物の仲間のふやし方について現在学習している。

イ 行事

2年の11月に助産師の方を講師に「命を育む講座」を実施した。「生きてるだけで百点満点」と題した講座で、生命の「偶然性」、今ここに存在することのすばらしさを生徒それぞれが深く心に感じた。

③ 日常での指導

安全教育を通して、自分の身を守ることの大事さを学んでいる。また、生活の中で虫や花などの他の生物とのふれあいも経験している。

本時の授業は「補充」を意図して行う。生徒たちは日々の生活の中で身体的に不自由な状況になることなく学校生活を過ごしているため、生命尊重という道徳的価値についてじっくり考え、深めることができていたとは限らない。そこで、生命のかけがえのなさについて考える資料をきっかけに、かけがえのない生命の存在やそれを尊重する意味について改めて考え、深めていくことが大切であると考え。

(3) 資料について＜資料観＞

主人公の裕介は、病気のために入退院を繰り返している。家族や友達、キミばあちゃんはそんな裕介を気にかけて心の底から心配している。しかし、みんなの心配は裕介の悩みの解決にならず、「親にも心配や迷惑ばかりかけて心苦しいし、何のために生きてるのかな。生きていても仕方がないんじゃないか」と漏らす。裕介の悩みの深さを知ったキミばあちゃんは、同じように憂い悩んだ広瀬淡窓という人物を紹介する。本の話から裕介は、淡窓の生き方が医師である倉重の一喝で変化したことを知る。「万善簿」の実践から、病弱であるがゆえに門下生の死について自己を責める人間・広瀬淡窓の生き方を通して、人間として精一杯生きることが大切であることを知り、自分の考えの甘さに気付くところを中心に考え、主人公の心の変化に共感することで道徳的实践意欲を培うことのできる資料である。

4 補充を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) 道徳的価値の大切さを理解させるために

- ・資料の読み取りをしやすくするために、導入では資料中で登場する広瀬淡窓という人物について簡単に紹介する。
- ・裕介の立場に立って裕介の心情に寄り添い、共感させて自分の考えをワークシートに記す時間を確保する。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- ・資料から離れ、かけがえのない生命を大切にすることはどういうことか考えることで漠然ともっている自分の人生観を言語化する場をつくる。
- ・ワークシートを使い、個人の考えをもたせる。その後、3～4人でのグループで意見交流を行い、友達のような考え方にふれさせる。

(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い、人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・授業の終末で、私という存在は唯一無二のものであることを再確認できるよう「私たちの道徳」p.102の詩を一人一人が静かに音読する。
- ・かけがえのない自分の生命についてふれ、余韻を残して終わる。

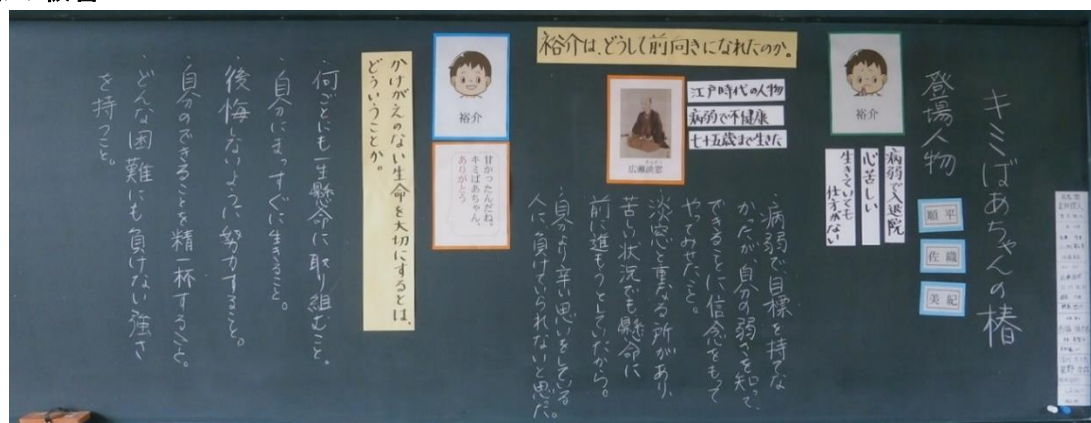


導入 みなさんはこの人（広瀬淡窓）を知っていますか

5 本時の展開

過程	学習活動と発問「 」(◎は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入 (5分)	1 広瀬淡窓について簡単に知る	○広瀬淡窓について紹介し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う 
展開 (40分)	資料「キミばあちゃんの椿」を読んで話し合う 2 裕介の心情を整理し、心の変化を理解する <価値理解> (1)「裕介はどうして落ち込んでいるのか」 ・入退院を繰り返しているから ・迷惑ばかりかけていて心苦しい ・生きていても仕方がないと考えている ◎(2)「裕介はどうして前向きになれたのか」 ・広瀬淡窓の話聞いたから ・自分と同じように病弱でも懸命に生きた人がいると知ったから	広瀬淡窓を紹介する ○裕介の沈んだ心情と前向きに変わった心情の間には、何があったのかをつかませる ○意見をより深めるために、切り返しの発問をする 「広瀬淡窓のどういうところが裕介の気持ちを変えたか」
	3 自分の生活を振り返る<自己理解> (3)「かけがえのない生命を大切にすることはどういうことか」 ・何事にも一生懸命取り組むこと ・後悔しないように努力すること ・自分のできることを精一杯すること	○個人の考えをもたせ、3～4人で話し合い、意見交流を図る ☆生命を尊重するという観点で考え、進んで意見交流をしている
終末 (5分)	4 各自、詩を読む	○落ち着いて音読ができるよう、雰囲気を整える ○意味を考えながら音読させる

6 実際の板書



7 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

T：「裕介はどうして前向きになれたのか」

C1：「キミばあちゃんが同じような人のことを話してくれたから」

T：「同じことを書いた人はいますか？」
→半数ほどが挙手

T：「他には？」

C2：「自分と同じような人だから」

T：「それは広瀬淡窓のことだよね。広瀬淡窓のことを書いた人はいますか？」
→半数ほどが挙手

T：「では聞きます。広瀬淡窓のどういうところが、裕介の気持ちを変えましたか」

C3：「広瀬淡窓という裕介に似て病弱な人でも、自分にできることを見つけ、それに向けて一生懸命生きていることが希望に思えた」

T：「同じ人、もしくは似ている人はいますか？」→数名が挙手

C4：「自分のような病弱な人でも塾を開き、病気を言い訳にしないで働く人だったから、頑張れば自分も広瀬淡窓のようになれるのではないかって思って勇気をもらった」

T：「あと一人、聞きます」

C5：「広瀬淡窓は、病弱ながら教師という道を突き進んで痛みに耐え懸命に生きてきたことが分かって、気持ちが楽になった」

T：「希望に思った・・・勇気をもらった・・・という発表は、自分が前向きに生きることにつながると思います」

T：「ではここで、みなさん自身に置き換えて考えてもらいます」
→昨年11月の「命を育む講座」をふりかえる



考えを伝え合う～「命を大切にするとはい」

8 考察

授業後、「資料提示の仕方」「発問の仕方・内容」「自己決定」の3つの視点から、次のように分析した。（○は成果 △は課題 ☆は改善策）

(1) 「資料提示の仕方」について

○登場人物を挙げ、立場や関係について整理したことが、短時間で資料を理解するのに有効であった。

○簡潔な資料提示で方向づけができ、授業の流れがスムーズとなった。

○視点を与えてから資料の読み聞かせをしたことで、生徒が考えながら読むことができた。

△発言の板書に時間がかかりすぎた。

△ねらいとする価値への方向づけが曖昧であった。

(2) 「発問の仕方・内容」について

○生徒の考えをしっかりとらえて、意図的指名に生かしていた。

○中心発問が簡潔であり、切り返しの発問でさらに考えを深めさせていた。

△授業者の発言がやや多く、その結果生徒に考えさせる場面が少なかった。

△終末の教師の言葉が指導になってしまった。

☆発問の構成を考える上で、資料名に込められた意味を十分に考える。

(3) 「自己決定」について

○命の大切さについては、友達の考えに真剣に耳を傾けるなどして理解が深まった。

△大切な命だから精一杯生きるという自分の生き方に結びつけて自覚するまでには至らなかった。

【H26 授業実践事例ー2】

深 化 を意図した道德の時間

主題名 「自立する力」

内容項目 1－(3) 自主・自律

平成26年9月22日実施

第2学年B組 22名

指導者 若林裕子

1 **ねらい** 自己の尊厳に気付き、自主的に考え判断し、望ましい行動をとろうとする意欲を育てる。

2 **資料名** 自立をたすけた手紙 (出典 日本文教出版 あすを生きる②)

3 主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道德的価値について《価値観》

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道德の基本である。したがって、深く考えずに付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。

中学生の時期は、自我に目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる。しかし、一方では自由の意味をはき違えて奔放な生活を送ったり、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されてしまったりすることも少なくない。また、自分自身にかかわる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということを深く考えることができない面も見られる。

自分自身の選択した行動が、結果的には自分の将来やその生き方に影響を与えることを自覚させ、少しでもよい行動をとろうとする意欲を高めていくことが大切であると考え。

(2) 生徒の実態《生徒観》

自己の尊厳に気付き、自主的に考え判断し、望ましい行動をとろうとする意欲を育てるために、学校教育全体で以下のような指導を行ってきた。

① 道德の時間における指導

1年時に内容項目 1-(3)「体育祭運営委員」(光村図書)を資料として、自らが引き受けた委員の仕事に責任を持ち、その役割を遂行するためには他人の言動に左右されずに誠実に行動することの大切さについて考えた。

② 各教科等での指導

ア 教科指導

理科の探究活動として実験活動を行う際にグループの中での役割を決め、一人一人に責任をもたせる活動を積み重ねている。そこでは、教科書を調べたり友達に聞いたりして、安全かつ正確に測定することを心がけさせている。

イ 特別活動

学級活動の時間では、職場体験学習に向け、働く意義を考えると共に家族の意見も聞き、働くことについての考えをまとめた。

ウ 総合的な学習の時間

高原学校に向けて、スローガンの「一致団結！仲間と共に高め合おう～自然の中で楽しく学び、自律心の向上を目指して～」を意識し、それぞれの係分担に責任をもつことで、一人一人が自ら行動する意欲を高めてきた。

③ 日常での指導

授業における積極的な発言や授業の準備、学級の係活動の際に自分の役割や次に何をしなければいけないのかを考えて行動するように指導を行ってきた。しかし、小学校から変わらぬメンバーであるため、小学校からの序列関係が今も残っている様子が見られ、正し

いことを率先して行ったり、正しくないことを注意したりすることができない現状がある。また、自分一人だけで行動することに自信がない様子も見られ、周囲の生徒に合わせて行動してしまう現状がある。

本時の学習では、資料を通して自ら考えて判断したことを積極的に行うことのよさや他人に左右されることなく正しいと思うことを率先して行うことの大切さを学ばせるとともに、自身のこれまでの振り返らせ、自らの行動に責任を持ち、望ましい行動をとろうとする意欲を育てたい。

本時の授業は「深化」を意図して行う。生徒たちはこれまでの授業や生活の中で自立することを意識する場面はあった。しかし、そのことについてじっくりと話し合ったり、深く考えたりすることが十分であるとは言えない。そこで、資料「自立をたずけた手紙」で手紙に込められた心情を読み取る活動を通して、深化を図り、自主・自立の精神を養っていききたい。

(3) 資料について《資料観》

この資料は、人間関係の悩みから学校へ来なくなったA子さんに対するB君の手紙が中心になっている。B君は小学校の頃、クラスの仲間からの嫌がらせで、つらく、悲しい思いをした。そうした中で悩みながら、間違ったことに屈せず、前向きに一生懸命努力した経験から、Aさんに共感すると共に、自分を見つめ直し、一歩踏み出せるようアドバイスを送る。

B君が嫌がらせから立ち直るときの心情を考えることにより、自己の尊厳に気づき、望ましい行動をとったことがB君自身の自立につながったことに気付かせ、Aさんにも自分と同じように自分の判断で立ち直ってほしいことに気付かせたい。また、自己を振り返りながら自立するということについて考えさせたい。

4 深化を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) 道徳的価値について理解するために

- ・ 高原学校のスローガンを振り返らせたり、「自立」「自律」の言葉の意味を確認したりすることで自主・自律の価値理解を深められるようにする。
- ・ B君が小学校時代に受けた嫌がらせから立ち直るときの心情に触れ、価値の実現の難しさを考えさせる。
- ・ B君の手紙に込められたA子への思いを考え、班(3～4人)で話し合うことによって、自分の気付かなかった考えを発見できるようにする。
- ・ 道徳的価値を理解できるようにワークシートを活用し、書く時間をしっかりと確保する。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- ・ 「私たちの道徳」p.22の文章を読み聞かせることで、自立するという意味について再確認し、自分の生活を振り返るきっかけとし、道徳的価値をとらえることができる。

(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い、人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・ 授業の終末で、授業を振り返って感想を書くことを通して自立することの大切さを押さえると共に、自己の生き方についての自覚を深める。

5 本時の展開

過程	学習活動と発問「 」(◎は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入 5分	1 高原学校のスローガンを振り返り、「自立」「自律」の意味を確認し、本時の主題を伝える	○「自立」と「自律」の意味の違いを確認し、本時は「自立する力」について考えることを伝える
展開 40分	2 資料を読んで話し合う ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞ (1)「B君はどうして立ち直れたのだろうか」 ・いつかはいい日が来ると頑張り続けた ・人の言うこときいたり、わらわしたりして少しずつかなしかったことをぶっ飛ばしていった ◎(2)「この手紙を通してB君がA子さんに伝えたかったことは何でしょうか」 ・自分の殻に閉じこもっていないで、一歩踏み出してほしい ・B君と同じようにいつかはいい日が来ると信じて頑張ってもらいたい ・自分を大切に、正しいと思うことに立ち向かっていくこと	○手紙に込められたB君の思いをとらえさせる ○B君が小学校の時嫌がらせを受けていたことをおさえ、B君の現状に立ち向かっていく自立の心をとらえさせる ○口頭で答えさせる ○自ら判断し、勇気をもって実行することの大切さを深く考えさせるために、個々に考えさせたあと、少人数のグループで話し合い活動を行い、お互いの考えの違いに気付かせる
	3 自己の立場で考える＜自己理解＞ 「私たちの道徳」p.22の文章を読み、自立することについて自分自身を振り返る (3)「これまでの生活の中で、自分で考えて、行動した経験はありますか」 ・高原学校で係の仕事に責任をもって取り組んだ ・体育大会の応援合戦で、ダンスを考えたり練習の仕方を考えたりした	「私たちの道徳」を紹介 ☆自分自身を振り返り、これまでの生活に照らし合わせて、自分なりの意見をもつことができているか
終末 5分	4 本時を振り返って、感想を書く	○本時の授業を通して一人一人が考えたことをまとめられるようにする

6 実際の板書



7 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

T：「この手紙を通してB君がA子さんに伝えたかったのは何か。ここはじっくり考えてもらいたいのでワークシートに書いてください」

ワークシートに記入（所要時間8分）

T：「班をつくって意見交換をしてください。自分と異なる意見で、それが良いと思ったら書いてください。では、司会者を決めてください」→意見交換（所要時間4分）

T：「それでは発表してもらいます。自分が書いた意見を、全体に向けて改めて発表してください。ではC1さん」

C1：「家にこもって泣いているのではなく、登校して少しずつ自分を変えていく、ということ伝えたかった」

T：「C2君」

C2：「同じ思いをしてその悲しみが分かるから助けたい、ということ伝えたかった」

T：「C3君」

C3：「負けずにがんばったら悪口を言われなくなる、ということ伝えたかった」

T：「C4さん」

C4：「よい日が来ると信じて毎日元気に過ごせばいつか良い日が来る、ということ伝えたかった」

T：「C5さん」

C5：「学校に来れば悲しいことがなくなる、ということ伝えたかった」

T：「この悲しいことは自然になくなるのですか」

C5：「いいえ、（努めて）笑って過ごす」

T：「笑って過ごす。自分を変える。学校に来る。負けずにがんばる。これは誰かに何かをしてもらうのではなくA子さん自身に変わってもらいたいという気持ちからですね。A子さん自ら行動して欲しいということ伝えたかったんですね」

この後、資料を離れて「私たちの道徳」p.22を教師が読み聞かせ、自分を振り返る。

8 考察

授業後、「資料提示の仕方」「発問の仕方・内容」「自己決定」の3つの視点から、次のように分析した。（○は成果 △は課題 ☆は改善策）

(1)「資料提示の仕方」について

○時間配分が適切であった。

○要点が押さえてあり、資料の道徳的価値をとらえる上で分かりやすかった。

- 構造的な板書であった。
- 高原学校のスローガンから「自律」を引用したことで考えやすかった。
- 強弱や速さを意識し丁寧な音読であった。
- △生徒の発言をすべて丁寧に書き、板書に時間がかかり過ぎた。
- ☆生徒の発言は簡潔にまとめ、板書する。

(2)「発問の仕方・内容」について

- 中心発問が簡潔で分かりやすく提示されていた。中心発問が適切であり、生徒が真剣に自分の考えをワークシートに書くことができた。
- △中心発問で、自分自身が考えて行動するということまで迫りきれていなかった。
- △意見交流での発表は、自分の考えに限定しなくてもよかったのではないか。
- △「自立した」という生徒の意見に、「自立したというのは具体的にどういうこと？」などのように切り返し、学級で考えを深めさせたい。
- ☆ねらいにせまるための、補助発問や切り返しの発問を準備しておく。

(3)「自己決定について」

- 考えさせる場面では、十分な時間確保をしていたので、生徒が思いを書くことができた。
- 授業後の感想を、ワークシートに迷うことなく書くことができていた。
- △本資料の「自立」と自己を振り返る「自立」とのつながりを、ふだんの生活で意識させることは難しいのではないか。



澤田浩一教科調査官をまじえて授業研究会

IV

研究のまとめ

Ⅳ 研究のまとめ

1 研究の成果

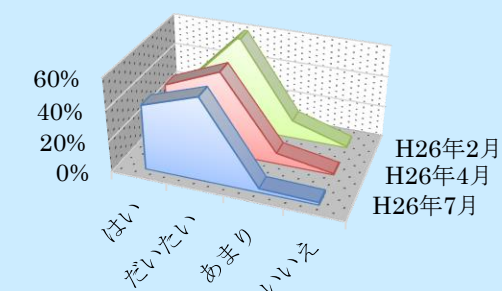
(1) 生徒の変容 ～諸調査及び教師の観察結果から～

生徒の変容を数値として客観的にとらえ今後の授業改善に生かすため、平成26年2月・4月・7月の3回、全校生徒を対象に道徳意識調査を行った。道徳の時間と本校の4つの重点指導内容項目にかかわる21の質問をした。半年という短期間のため、ほとんどの項目で全校生徒の意識に大きな変化は見られなかったが、子細に検討すると次のような変容が認められた。

① 道徳の時間に関して

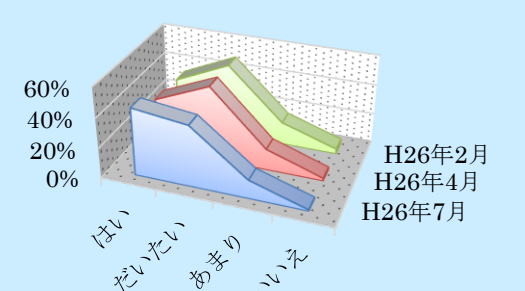
質問アと質問イのグラフから、道徳の時間の学習を肯定的に受け止め、興味をもって道徳の資料を読む生徒が増えていることが分かる。4月から8月の道徳ワークシートの自己評価を集計した資料1自己評価 ア「平均値の分布」からも同様の傾向がうかがえる。全職員が道徳の時間を充実させるため、授業改善に取り組んできた成果である。生徒の道徳性に顕著な変容は認められなくても、道徳の時間の学習に意味を見だし、興味をもって学習に取り組むなど生徒の意識が変わり始めた。この変容は、生徒が道徳的実践力を身に付けるための大きな一歩である。

質問ア 『道徳の時間』の学習はためになると
思いますか（全校の推移）



	はい	だいたい	あまり	いいえ
■ H26年7月	42%	53%	3%	2%
■ H26年4月	39%	53%	7%	1%
■ H26年2月	26%	61%	12%	1%

質問イ 『道徳の時間』では、興味をもって
資料を読んでいますか（全校の推移）

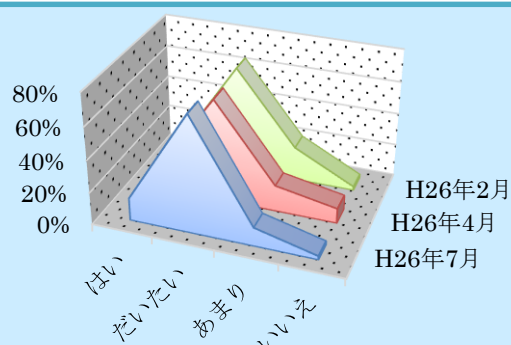


	はい	だいたい	あまり	いいえ
■ H26年7月	45%	41%	12%	1%
■ H26年4月	35%	50%	14%	2%
■ H26年2月	33%	49%	15%	3%

② 向上心・個性の伸長に関して

よいところがありながら、自分に自信がもてない生徒が多かったが、質問ウのグラフからは、自分のよさを認められる3年生が増えてきていることが分かる。自己肯定感を高めるために行われた学校保健委員会での取組～性格のリフレーミング(言い替え)～も効果的であった。「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことはありますか」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」などの質問についても、同様の傾向が認められた。学校行事・生徒会活動・部活動などの中心となって活躍するなど、道徳の時間以外の様々な体験が、自己を肯定的に受け止めることにつながったと考えられる。

質問ウ 自分にはよいところはありますか
(3年生の推移)



	はい	だいたい	あまり	いいえ
■ H26年7月	14%	72%	12%	2%
■ H26年4月	12%	63%	16%	9%
■ H26年2月	12%	65%	21%	2%

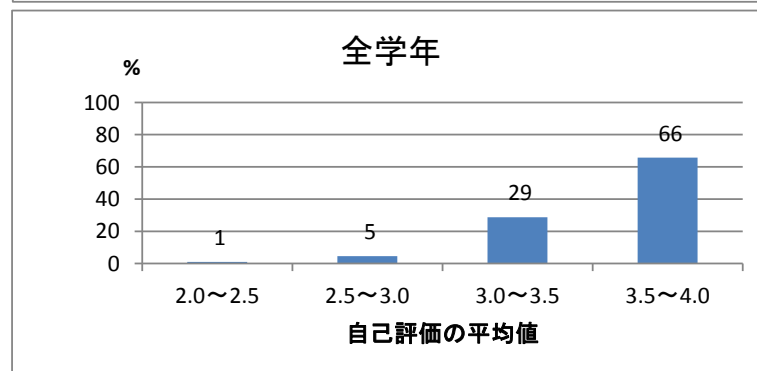
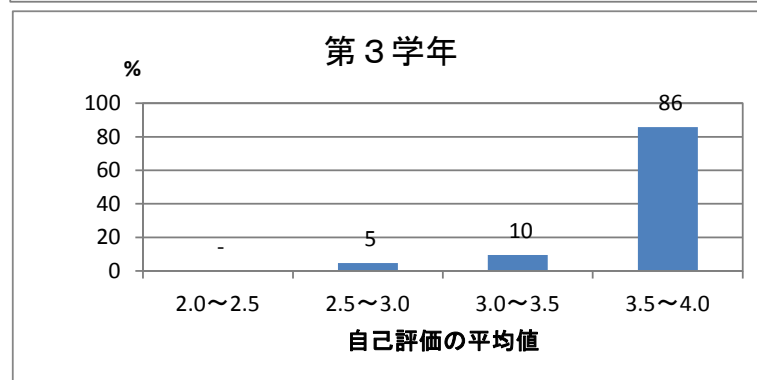
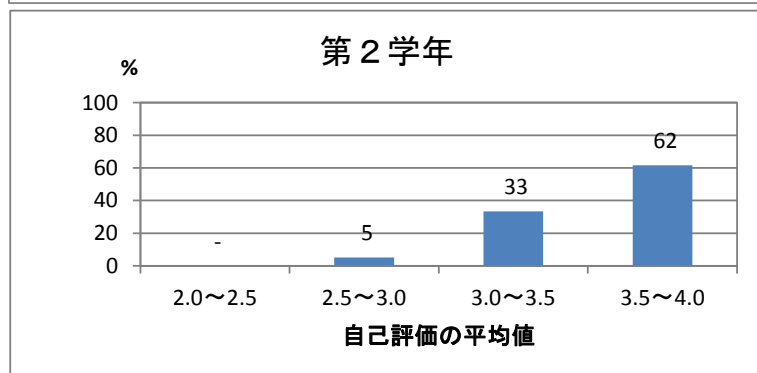
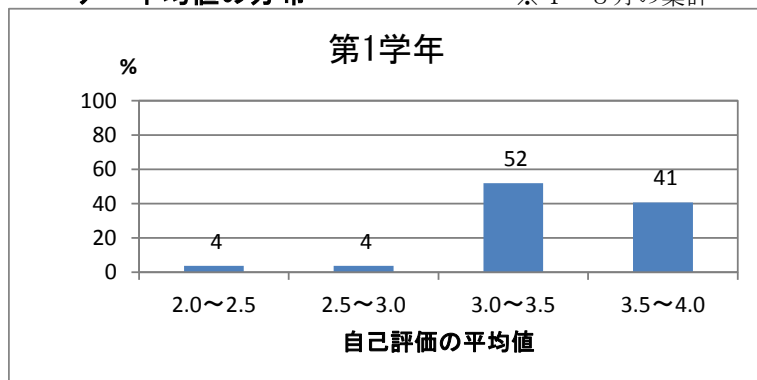
資料 1 道徳ワークシート自己評価 Aを4点 Bを3点 Cを2点 Dを1点として平均を算出

*道徳の時間を振り返ってみよう。

	A 意欲的にできた	B できた	C あまりできなかった	D できなかった
1 資料について、興味を持って読めましたか	A	B	C	D
2 自分の考えを伝えることができましたか	A	B	C	D
3 友だちの考えを聴くことができましたか	A	B	C	D
4 授業の内容について深く考えることができましたか	A	B	C	D

ア 平均値の分布

※4～8月の集計



イ 資料ごとの平均

【第1学年】

実施時期	内容項目	資料名	平均値
4月 ↓ 8月	1-2	はやぶさの挑戦	3.3
	1-1	父の目覚まし時計	3.4
	4-7	ミソアジの学校	3.3
	2-2	父の言葉	3.5
	1-5	トマトとメロン	3.5
	4-2	富士山を汚すのは誰か	3.4
	2-1	ここは病院でしょ	3.6
	1-3	二人の約束	3.4
	3-2	オーロラ	3.5
	4-9	愛国心	3.5
	4-1	オーストリアのマス川	3.3
	2-4	部活の帰り	3.5
	4-4	できること...	3.6
	2-6	手をつなごう	3.5
	4-9	さよならホストファミリー	3.7
全 体			3.5

【第2学年】

実施時期	内容項目	資料名	平均値
4月 ↓ 8月	1-1	習慣をつくる	3.5
	4-5	そうじの神様が教えてくれたこと	3.5
	3-1	最後のパートナー	3.6
	2-1	挨拶はことばのスキンシップ	3.5
	2-3	絶交	3.7
	2-2	ある車中でのこと	3.6
	4-4	明かりの下燭台	3.7
	1-4	戦争取材するジャーナリスト山本美香	3.6
	1-2	小さな勇気こそ	3.6
	3-3	良心のたたかい	3.6
	1-3	スイッチ	3.5
	3-2	樹齢七千年の杉	3.7
	4-8	わがふるさとを守る生徒会	3.5
全 体			3.6

【第3学年】

実施時期	内容項目	資料名	平均値
4月 ↓ 8月	2-2	あるレストランのできごと	3.8
	4-9	昔と今を結ぶ糸	3.7
	1-2	「ちょっとだけ頑張る」ことを毎日続けよう	3.7
	1-1	たまにはメールこなくてもいいかも?	3.8
	2-6	帰郷	3.7
	3-1	キミばあちゃんの椿	3.7
	4-6	手紙ー親愛なる子供たちへー	3.7
	4-10	命のトランジットピザ	3.8
	4-8	稲村の火	3.7
	4-6	パンの記憶	3.8
	1-4	風に立つライオン	3.6
全 体			3.7

③ 人間愛・思いやりの心に関して

4月の調査では、1年生は他学年に比べ、「ときにはいじめも仕方がない」と考える生徒が多かった。しかし、**質問エのグラフ**の7月調査からは「いじめを許してはならない」と考える生徒が増えてきている。道徳の時間だけではなく、全教師が教科指導や日常の学校生活の中で他とのかかわりを意識して指導してきた成果である。生徒の道徳性は、道徳の時間だけでなく、学校のあらゆる教育活動の中ではぐくまれることを再認識した。

④ 役割と責任の自覚・集団生活の向上に関して

質問オのグラフの7月を見ると、自分の役割や責任をしっかりと果たす2年生が増えた。「学級活動などでは互いを信頼して話し合い、励まし合ってよりよい学級生活をつくろうとしていますか」の質問でも、肯定的な回答の割合が増え、意欲的に集団生活の向上にかかわろうとする姿勢が分かる。中学校生活に慣れ、3年生引退後は部活動の中心となっていることなどが大きく影響していると考えられる。

⑤ 生命尊重に関して

質問カのグラフからは、この質問に対して肯定的な回答の割合が、調査当初より高いことが分かる。数年前より取り組んでいる「花プロジェクト」～パンジーを種子から発芽させ、苗を作り、花壇へ植える活動～の成果である。

(2) 生徒の変容と取組の有効性

～生徒の感想から～

自分の思いや考えを人前で表現することが不得手と思われた生徒が、行事後の振り返りには素直な感想を記すようになった。

① 命を育む講座から（H25年11月実施）

○自分の生きる能力のすごさや家族から大切にされているんだということを感じ、特別な何かをもっていなくても、自分に誇りをもって前向きに生きていくことが大切なのかなと感じることができました。

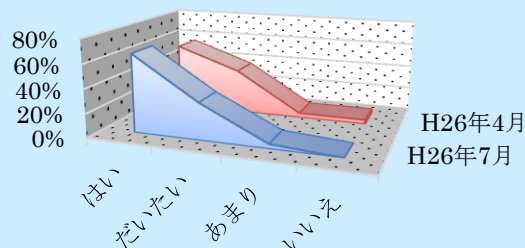
（1年女子）

○子どもを授かった時の親の苦勞と責任が伝わってきました。育児放棄をするような親にはならないように生きていきたいです。向かってくる壁を一つ一つ乗り越えて生きていこうと思います。

（3年男子）

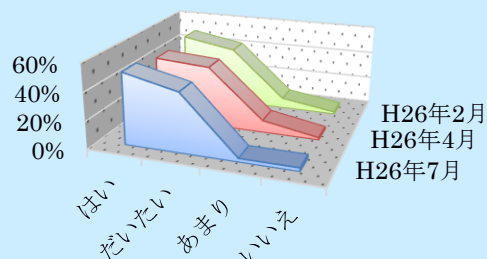
1年女子の感想からは、この講座を受けて自己肯定感が高まった様子が分かる。3年男子の感想には、やがて命をはぐくむことへの決意を感じる。

質問エ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか
（1年生の推移）



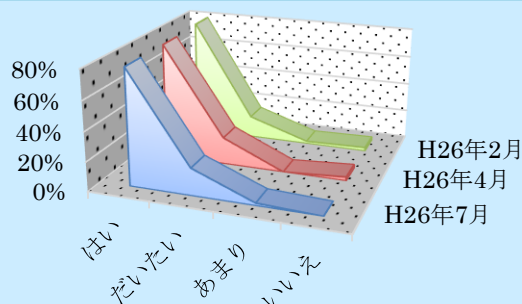
	はい	だいたい	あまり	いいえ
H26年7月	65%	31%	4%	0%
H26年4月	56%	37%	4%	4%

質問オ 生徒会活動（委員会活動など）や学校行事において、学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしていますか（2年生の推移）



	はい	だいたい	あまり	いいえ
H26年7月	51%	42%	3%	3%
H26年4月	46%	43%	9%	2%
H26年2月	49%	42%	8%	2%

質問カ 木を折ったり動物を傷つけたりすることはいけないことだと思いますか（全校の推移）



	はい	だいたい	あまり	いいえ
H26年7月	79%	19%	2%	0%
H26年4月	79%	19%	0%	3%
H26年2月	81%	15%	2%	3%

② 花プロジェクトから（H25年9月種まき・10月鉢上げ・12月定植）

○鉢上げ作業をしてみて、植物は弱いということが印象に残りました。ピンセットで引き抜く時に少し間違っただけで根が切れたり葉が折れたりしそうだったからです。でも、播いた種は少ないけれど、芽を出してくれたのだから、美しい花を咲かせられるようこれからも育てていきたいです。（1年女子）

○担当した子たちはみんな積極的に頑張っていました。僕たちが花壇に植えたのは複雑な星型だったので大変でした。でも、（園児は）思っていた以上に自分から取り組んでいたのが優秀だなと思いました。いい花が咲くといいです。（1年男子）



高校生の指導を受けて鉢上げ

種子から育てたことで小さな草花にも命があることを実感し、慈しむ気持ちが芽生えた。園児と一緒にパンジーを植えたことで、中学生の心に温かな思いが湧いてきた様子である。

③ 授業後の感想より（平成26年度）

1年「思いやり」

資料でタクシーを待つ順を譲ってくれた話について学んで…

○日本では弱い者を助けるのではなく「強い者の味方」になるということが当たり前になっているので、そこを直さなければいけないと思いました。（女子）

○（タクシーを待つ順は）日本では先着順だけど、ドイツを見習って弱い者を助けられるように、それを日常にできていったらいいなと思います。（男子）

2年「集団生活の向上」

○部長や副部長ではないけれど部長をしっかりサポートしたり素早く行動して準備することが自分の役割だと思います。（女子）

○部活で部長や副部長がいないときに、部員をまとめて練習に取り組んでいます。（男子）

○自分に与えられた役割は小さいことでも大切な役割だから、たとえ辛くても嫌なことでも責任をもってしなければいけないと思います。（女子）

3年「個性の伸長」

○みんなの話を聞いて改めて自分と他人の良いところを見つけることができました。自分らしくいることは大切だなと思いました。自分は自分のままでいいんだなと思いました。（女子）

○自分について考えることができました。自分の良いところは大切なものを守ること、音楽が好きなことです。音楽で人を楽しませる人間になりたいです。（男子）

○自分の良いところは一つのものにすごく集中して熱くなれることです。自分に負けない人になりたいです。（男子）

道徳ワークシートの記述を見ると、生徒は、資料のもつ道徳的価値を理解し、自分や自分の周りの生活を振り返って思いや課題を表現する——「自己決定」がなされていると言える。

④ 振り返り用紙より

生徒が書いた振り返り用紙を次ページに示す。

本校生徒は、自分の考えを人前で発表したりノートに表したりすることが不得手であった。少なくとも教師の目にはそう映っていた。しかし、①～④のいずれを見ても、生徒は自分の考えをもち、はっきりとそれを自分の言葉で表現している。意識調査の数値には顕著な変化は表れていないが、生徒は素直に感じ、それを表現できるようになってきている。道徳の時間の充実を中心とした本研究の取組は有効であったと確信する。

体験活動の振り返り～心に生えた気づきを大切にしよう

高山中学校 1年A組22番 氏名

芸術プロジェクト

映画鑑賞『じんじん』

の感想



- 1 期日 平成25年10月4日(金) 第2～4校時
- 2 場所 いぶき会館
- 3 会場・主眼 人間関係 (文部科学省指定)
- 4 映画を観て、あなたにどのようなことを感じましたか、感想を教えてください。

銀三郎があやかちゃんを娘と知ったとき、とても泣いていました。それほど、娘が大事だったことがわかりました。絵本のコンテストの時、きちんとあやかちゃんが来てくれたのに銀三郎は来ませんでした。けれど、しっかり絵本を完成させてきました。バスで帰るとき本当はもっとあやかちゃんと一緒にいたかったです。銀三郎がつくった本を渡して帰ってしまいました。あやかちゃんは絵本を読んで、お父さんが自分のことを忘れていなかたを知り、とても嬉しかったと思います。そのあと、新しいお父さん

※行が足りない時は、裏面を利用してください。

体験活動の振り返り～心に生えた気づきを大切にしよう

高山中学校 3年B組15番 氏名

マラソン大会

を終えて感じたこと



- 1 期日 平成25年10月5日(土) 第2・3・4校時
- 2 あなたが個人目標やこれ迄の記録、今日のクラスの姿を通して感じたことを自分の言葉で書きましょう。(書ききれないときは裏面を使ってください)

マラソン大会を終えて僕は、自分の今の取組が、今回の結果につながらないと思います。部活では毎日たくさん走りを繰り返してきたので、今回の目標「20位以内に入って、総合優勝」という目標を達成する事ができたと思います。クラスでは総合優勝を目標ができたのは一人一人が、目標に向けて努力した結果だと思います。これから3日のマラソンの目標は、しっかりと覚えていきます。

生徒会交流会

次回体育大会で頑張ろう!!
を通して感じたこと

- 1 期日 平成25年10月6日(日) 第1・2校時
- 2 なかなかやクイズ大会、なか、お祭りドッジボールを通して、感じたことや思ったことを自分の言葉で書きましょう。(自分の記録、友だちの様子、運動や遊びを通して感じたこと)

今回の生徒会交流会は、生徒会として運営でした。生徒会交流会が始まる前はすごく不安でしたが、かなりスムーズに運営をする事ができ安心しました。クラスでも優勝をする事ができて、みんなが楽しかった、などの声を聞けました。本当に良かったです。これから頑張りたいです。

お疲れ、なかなか、よかった、次はもっと頑張ろう!!

心に生えた気づきを大切にしよう

高山中学校 1年A組11番 氏名

命を育む講座「生きてるだけで百点満点」

を通して

- 1 期日 平成25年11月7日(木) 第5・6校時
- 2 場所 体育館
- 3 講師 鈴木 圭子先生 (群馬県児童会 会長)
- 4 言葉を通して、あなたにどのようなことを感じましたか、感想を教えてください。

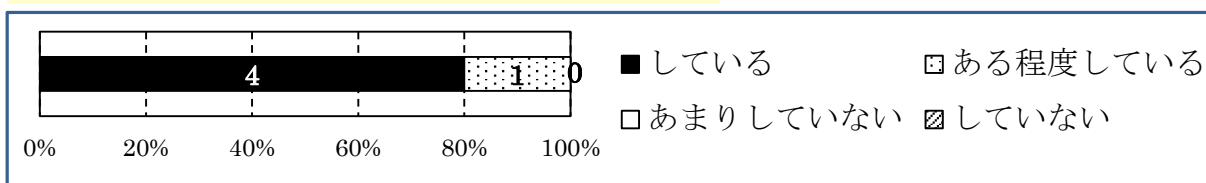
今まで私は命のことを深く考えたことは無かったけれど話を聞いているうちに、赤ちゃんが生まれてくるまでの大変さ、お母さんの頑張りによって、一つ一つの命が誕生することを知りました。自分もそれをのりこえてきたかと思うと、とてもびっくりです。私が生まれてくる時は母がじんじん中絶症にかかり、病院で過ごすことが多かったと話を聞いていましたが世の中にはずいぶん病院にいて赤ちゃんを産んだ人がいると知り、みんなとても頑張って赤ちゃんを産んだなと思いました。また、私は要らないんじゃないか、そんな風に見えるときも度々あります。ですが、公演を聞き、もう少し前向きに考えてみようと思いました。これから自分をも大切にしたいです。

生徒が書いた行事の振り返り

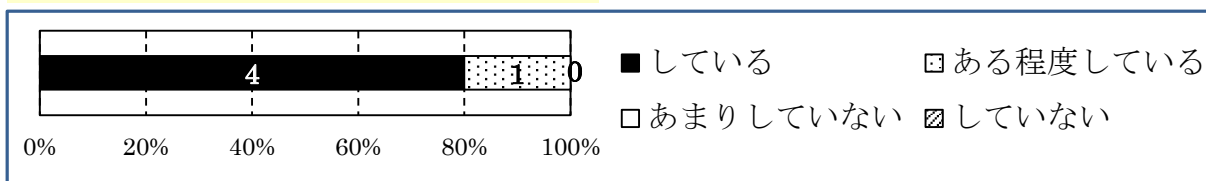
(3) 教師の意識の変容

本研究に関する教師の意識を探るため、平成26年8月に「道徳教育 意識調査」(対象者は11名)を実施した。なお、グラフ中の数値は人数を表している。質問ア～カは学級担任(5名)のみが回答している。

ア 年間指導計画にそって、「道徳」の授業をしていますか

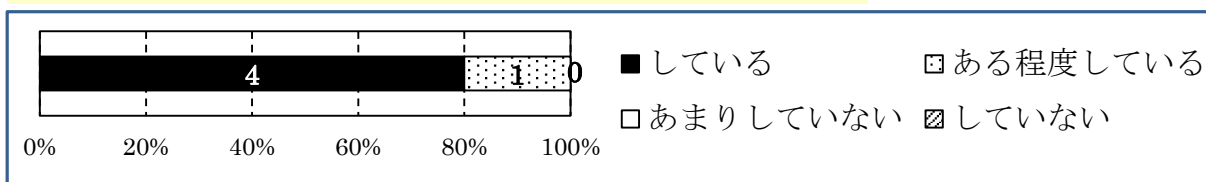


イ「道徳」の授業に積極的に取り組んでいますか



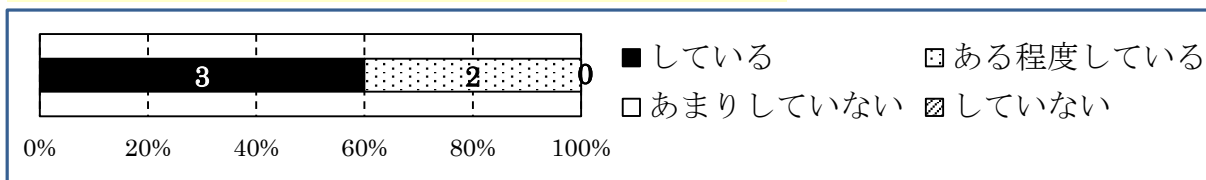
本研究の指定以前は、年間指導計画にそった道徳の時間の実施について、アンケート調査などで検証する仕組みの整備が十分とは言えなかった。道徳の時間の量的管理については十分であったが、その質的管理については不十分であった。本研究への取組を通して、年間指導計画を日常的に意識しながら道徳の時間に取り組もうとする意欲が高まったものとする。その要因として、研修主任・道徳教育推進教師を中心に研修推進体制が整い、機能したことが挙げられる。具体的には、授業改善にかかわる模擬授業(教師が生徒役)を実施し、形式的でなく納得がいくまで協議を行う授業研究会を行ったことで意欲が高まったと言える。

ウ 補充・深化・統合を意識して「道徳」の授業に取り組んでいますか



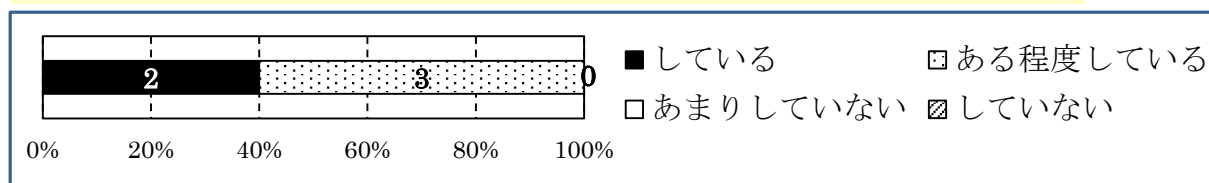
道徳の価値について補充し、道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて一層考えを深化させ、多様な道徳的体験を統合することを意識して道徳の授業を行うようになってきた。補充・深化・統合を意図して授業を行うことが、道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することにつながることへの意識を継続する必要がある。

エ「道徳」の授業では、生徒が主体となるよう心がけていますか



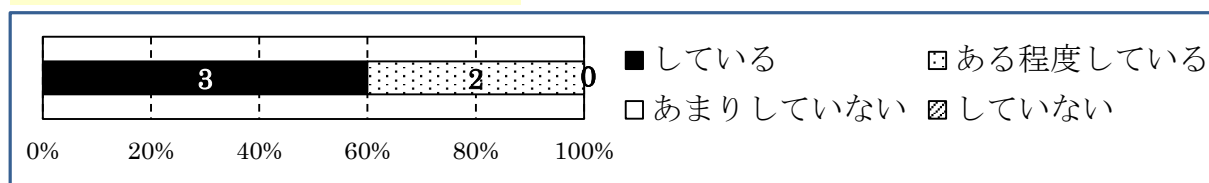
発問を精選し、話し合い活動の場を設けるなど生徒が授業の主体となるよう努め、意見の交流が活発に行われるようになった。さらに「なぜそう思ったのか」という切り返しの発問を意図的に行うことで、さらに生徒が主体となって考える場面を増やしたい。

オ 作成した資料等（場面絵・発問カード）は、次年度に活用するよう保管していますか



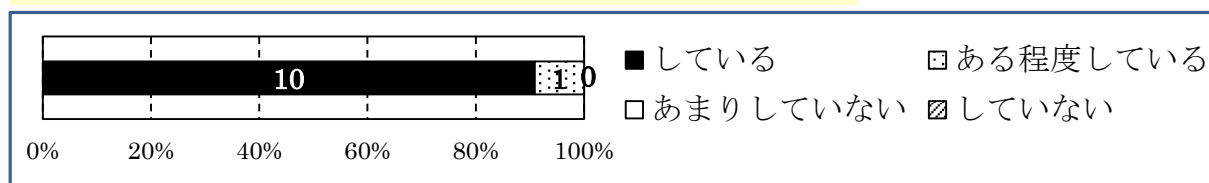
道徳の時間では、必ず場面絵と発問カードを使うことが共通確認されている。その管理については、まだ十分とは言えない。学校全体として保管用スペースを整備することが必要である。

カ 「私たちの道徳」を活用していますか



「私たちの道徳」（文部科学省）の読み物資料については、年間指導計画に位置付けており、授業の中で活用している。内容項目にかかわる詩や格言は、授業の終末で価値への自覚を深める場面で紹介することが多くなってきた。長期休業には持ち帰って家族と話合いの時間を設け、自分の考えを書いたり好きなところを読んだりするようにしているが、活用は十分とは言えない。家庭での活用を含め、一層の活用を図る必要がある。

キ 教科指導において、「道徳教育」とのかかわりを意識していますか



本研究では、道徳教育の全体計画の補助資料として、「道徳の時間と他教科・他領域の指導内容と時期との関連」を別葉で作成した。その関連について全教師が意識するようになった。

2 今後の課題

- ・複数の教師がかかわって資料分析や価値分析を行い、指導案を検討することができたのは研究授業に限られていた。しかし、この2年間の研究を通して「資料提示の工夫」と「発問の工夫」を中心とした授業改善の流れは教師の意識に浸透した。年間35時間の道徳の時間が生徒にとって充実したものとなるよう、今後も道徳の時間を質的に高めていく努力を継続することが大切である。
- ・道徳教育は学校の教育活動全体で行うという認識を全教師がもっている。教科の授業では一時間のねらいを達成することが最も重要であるが、生徒同士の意見交流の場や実験・観察などの活動の場、教師の言葉かけにも道徳的な要素が含まれる。それを日々の教科指導で常に意識することが大切である。私たち教師は、目の前にいる生徒の十年後、二十年後の良き姿を思い浮かべつつかわることを忘れてはならない。
- ・生徒の道徳性は学校教育だけではなく、むしろ家庭や地域の力が大きく作用する。家庭・地域との連携として、道徳教育啓発リーフレットの配布・Webページによる発信を通して本校の道徳教育の取組を紹介したり、講演会・公開授業や学校行事などへの参加を呼びかけたり、幼稚園・小学校・高等学校との異校種間交流を行ったりしている。こうした取組の効果をすぐに求めず、継続することが重要である。

おわりに

文部科学省より委託を受けた道徳教育総合支援事業は「我が国の未来を担う子どもたちに、社会性や規範意識、思いやりなどの豊かな心をはぐくむための教育を充実するため、学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳教育を推進する。」ことを事業目的としています。そのねらいを達成するために本校では「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」を研究主題に掲げ、職員一丸となって道徳教育の推進に当たってきました。全体計画および年間指導計画の見直し、別葉の作成といった指導計画の整備から、効果的な資料提示と発問の工夫を中心とした道徳の授業改善・充実を目指した指導案作成、授業実践まで、研修主任や道徳教育推進教師のリーダーシップのもとで、決して妥協することなく全職員がまさに切磋琢磨しながら、よりよい道徳教育の実践に向けて時間の経つのも忘れるほど熱心に研究を重ねてきました。その成果は、道徳の時間の充実のみならず本校の教育活動全体に表れつつあることが感じられます。

ここに本校２年間の研究成果をまとめ、実践報告書として発刊いたします。どうか御高覧の上、御指導のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本校の研究推進に当たりまして、御指導・御助言を賜りました群馬県教育委員会、吾妻教育事務所、高山村教育委員会並びに金沢工業大学の白木みどり教授、前東京福祉大学教授の小林靖能先生及び御支援・御協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝し、ここにお礼申し上げます。

高山村立高山中学校 教頭 三原 一志

研究同人

■平成２５年度

校長	菅谷 礼示	教頭	山田 幾久	教諭	小海 義明
教諭	田村 厚子	教諭	金井 俊一	教諭	◎山本 順子
教諭	福田亜由子	教諭	宮下 昌志	教諭	佐藤 俊宏
教諭	鈴木 雅弥	教諭	竹内 正則	教諭	○奈良 達也
教諭	高田 優樹	養護教諭	片貝 照代	補佐事務長	町田 和恵
支援員	川端由美子	用務員	廣瀬奈巳江	支援員	後藤 肇

■平成２６年度

校長	菅谷 礼示	教頭	三原 一志	教諭	田村 厚子
教諭	金井 俊一	教諭	◎山本 順子	教諭	福田亜由子
教諭	宮下 昌志	教諭	佐藤 俊宏	教諭	鈴木 雅弥
教諭	若林 裕子	教諭	竹内 正則	教諭	○奈良 達也
教諭	高田 優樹	養護教諭	片貝 照代	統括補佐事務長	町田 和恵
支援員	川端由美子	用務員	廣瀬奈巳江		

◎研修主任 ○道徳教育推進教師

参考資料

- 1 平成 2 6 年度 道徳教育基本方針
- 2 平成 2 6 年度 道徳教育の全体計画
- 3 平成 2 6 年度 道徳教育の全体計画別葉②（1 学年）
「道徳の時間と教科指導・特別活動などとの関連表」
- 4 平成 2 6 年度 道徳教育の全体計画別葉①
「学校・生徒会行事と内容項目との関連表」

平成26年度 道徳教育基本方針

高山村立高山中学校

1 学校教育目標

◇基本目標

心身共に健康で、高い知性・豊かな感性・たくましい意志と創造力をもち、郷土を愛し、人間性豊かな生徒を育成する。

◇目指す生徒像

明るく…礼儀正しく、思いやりがあり、常に清潔な環境に心がけ、感動と感謝の心を大切に
する生徒

賢く…自ら学ぶ意欲にあふれ、進んで計画し実践できる生徒

逞しく…自ら考え、正しく判断し、苦しさや困難に負けない心と体を培い、今を精一杯生きる
生徒

2 学校経営方針及び本年度の努力点を踏まえて

学校教育全体を通じて道徳教育を行い、道徳性を養うとともに、人格の形成を目指した教育の推進を図る。

- ・道徳の時間の指導を充実し、道徳的実践力の向上を図る。また、諸活動を通して自治的な活動ができる生徒を育成する。
- ・生徒会主体の啓発活動を奨励し、学校・家庭・地域と連携して「いじめのない学校づくり」に取り組む。
- ・全校花作り活動などの諸活動を通じて、生命を尊重する態度や思いやりの心を育てる。

3 道徳教育の改善・充実に向けた基本方針と具体的取組

(1) 指導の方向性の明確化と全職員が共通理解のもとでの指導の充実

- ・生徒の実態を把握するとともに、保護者の願いや高山村教育行政方針を踏まえ、高山中学校としての特色ある道徳教育の方向性を明確にする。
- ・「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」を目標とし、一層伸ばしたい道徳性として、全学年共通の重点指導内容項目を「向上心・個性の伸長」「役割と責任の自覚・集団生活の向上」、いじめの未然防止の観点から「人間愛・思いやりの心」「生命尊重」の4項目とする。さらに、各学年の実態を踏まえて1項目を追加し、各学年が5項目を重点指導内容項目として位置付け、発達の段階に応じた指導の充実を図る。

(2) 道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方について自覚を深め、よりよく生きるための道徳的実践力の育成

- ・別葉を活用し、各教科、総合的な学習の時間、特別活動及び学校行事などの体験活動の学習で、意図的に道徳性の育成を図る。また、道徳の時間では各教科、総合的な学習の時間及び特別活動と関連を図って指導することで、道徳的価値の補充、深化、統合を図る。

(3) 学校及び地域の特色を生かした指導計画の確立と実践

- ・「花プロジェクト」「光プロジェクト」「芸術プロジェクト」をはじめ、諸行事の体験活動や講演会などを通して、情操教育の充実を図る。
- ・幼小中の12年間を見通した本村の一貫教育の方針に基づき、幼小中連携による基本的な学習習慣と生活習慣の定着を図る。

4 道徳の時間の指導の改善・充実に向けた具体的取組

(1) 補充・深化・統合を目指した授業づくり

- ・道徳教育の要をなすのが道徳の時間である。道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深めるために、道徳の時間の学習を「補充・深化・統合」のいずれかに位置付けた授業づくりを行う。

(2) ねらいを達成するための授業づくり

資料のもつ道徳的価値を基に、人間としての生き方の自覚が深められるための授業づくりを下記の観点で行う。

- ・生徒にとって魅力ある資料、効果的な資料の選定
- ・資料分析に基づいた中心発問と補助発問の決定と発問構成の工夫
- ・興味・関心をもち、資料の内容理解や思考の援助となる提示資料の工夫と作成
- ・学習の流れや重点が分かる板書計画の工夫
- ・自分の考えを書き込め、考えの深まりが分かるワークシートの工夫と作成
- ・話合いのルールに基づき、伝え合い、深め合うことを目指した話合いの工夫
- ・毎時間の自己評価の実施と蓄積
- ・学習を振り返り、自己を見つめることができる掲示物の作成と掲示

5 道徳教育の充実・改善にかかわるその他の具体的取組

(1) 生徒の変容を見取るためのポートフォリオの蓄積

学校行事や体験活動の実施後、まとめた事柄や感想などをポートフォリオとして蓄積し、自己の心の成長を知ったり、生徒の心の変容を見取ったりするための参考資料とする。

(2) 道徳の時間に活用した資料の保存と活用

授業で活用した学習指導案や提示資料などは、所定の場所に整理して保存するとともに、次年度に活用していく。また、板書などは電子データに保存し活用できるようにする。

(3) 家庭・地域との連携

保護者や地域の方に道徳の授業の積極的な公開や、学級通信などに道徳の時間の授業の様子や感想を掲載し、道徳教育に理解を深めてもらおうと共に、学校・家庭・地域が連携して生徒の育成に携わる一助とする。

平成26年度 道徳教育の全体計画

高山中学校



平成26年度 道徳教育の全体計画別葉② 道徳の時間と教科指導・特別活動などとの関連表

道徳教育の 重点目標	自他のよさを認め、自ら判断し、 よりよく生きようとする生徒の育 成を目指す。	学校の 重点指導 内容項目	1－(5) 向上心・個性の伸長 2－(2) 人間愛・思いやりの心	3－(1) 生命尊重 4－(4) 役割と責任の自覚・集団生活の向上
---------------	--	---------------------	-------------------------------------	--------------------------------------

内容項目	道徳の時間	特別活動			総合的な 学習の時間	各教科 国語
		学級活動	生徒会活動	学校行事		
1-(1) 望ましい生活習慣、健康、節度	父の目覚まし時計④	私の学習方法⑤安全な生活⑤ 1学期の反省⑦2学期を迎えて 2学期の反省と冬休みの計画⑩	クリーンアップ検査(通年)	学校オリエンテーション④、身体計測④、学校保健委員会⑦⑩、始業式終業式④⑦⑧⑩ ①、二者面談⑩、人権週間⑩、修了式③、イブジョブ(前期)、全校集会(通年)	尾瀬を知らう⑤ ～⑦	
1-(2) 希望、勇気、強い意志	小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦④ 無口なおじいさんベッポ⑩	中学生になって④ 充実した学級生活① 期末テストへ向けて⑥ 1年の反省と進級への心構え③	生徒会オリエンテーション④、壮行会④⑦⑨	入学式④、卒業式③		言葉に出会うために④
1-(3) 自主・自律、誠実、責任	二人の約束⑥ 裏庭でのできごと⑩	学級生活充実のための工夫⑤ 尾瀬学校の班編成⑤ 私の進路/希望する職業について⑨⑩	生徒会オリエンテーション④、生徒総会⑤、生徒会本部役員選挙⑨、生徒会月例委員会(通年)	学校保健委員会⑦⑩、校内文化祭⑩	学習課題の設定、情報収集、発表用資料作り(通年)	言葉を集めよう⑥ おいしい読書⑦ 話題をとらえて話し合おう⑩ 調べたことを報告しよう⑩
1-(4) 真実愛、理想の実現	奈良筆に生きる⑩	私の進路/希望する職業について⑨⑩		少年の主張校内大会⑦、英語暗唱弁論大会⑨、美術作品回覧展②		ダイコンは大きな根?⑤ ちょっと立ち止まって⑥ シカの「落ち穂拾い」⑩
1-(5) 向上心・個性の伸長	トマトとメロン⑤ 石段の思い出①(光村図書)	私の学習方法⑤ 1年の反省と進級への心構え③		マラソン大会⑥、体育大会⑧、芸術の日⑩、二者面談⑩、スキー教室①、全校集会(通年)	職業調べ⑩～③	感じたことを文章にしよう②
2-(1) 礼儀	ここは病院でしょ⑥ 「愛情貯金」をはじめませんか⑩		さわやかあいさつ運動(通年)	退任式④、スキー教室①	花プロジェクト⑨⑩	項目を整理して伝えよう⑨
2-(2) 人間愛、思いやり	父の言葉④ ドイツにて⑨ 旗②	体育大会への参加⑧	生徒会廃品回収⑧、	認知症サポーター養成講座⑤、人権週間⑩、全校集会(通年)	花プロジェクト⑩	大人になれなかった弟たちに…⑧
2-(3) 信頼・友情	近くにいる友⑩	体育大会への参加⑧	生徒会交流会⑥	校内文化祭⑩、人権週間⑩、		星の花が降るころに⑦ 少年に目の思い出①
2-(4) 男女の敬愛	部活の帰る 発達と心の健康② 私の悩みとその解決⑩		生徒会交流会⑥	全校集会(通年)		星の花が降るころに⑦
2-(5) 自他の尊重、謙虚、寛容の心	言葉の向こうに⑩(文部科学省)	望ましい人間関係について⑦		校内文化祭⑩、人権週間⑩、卒業式③		友達をみんなに紹介しよう⑤ 項目を整理して伝えよう⑨ 話題をとらえて話し合おう⑩ 言葉を探検する② わかりやすく説明しよう⑥ はじめての詩⑥
2-(6) 感謝	手をつなごう⑨		3年生を送る会③、	退任式④、花プロジェクト⑨⑩、卒業式③	花プロジェクト⑨⑩	
3-(1) 生命尊重	葉っぱのフレディ⑩ ゆうへー生きていてくれてありがとう①			尾瀬学校⑥、地震避難訓練⑥、防災訓練⑩、不審者対応訓練②	花プロジェクト⑥～⑩	雪とバイナッブル⑦ 大人になれなかった弟たちに…⑧
3-(2) 自然愛、畏敬の念	オーロー—光のカーテン—⑥	尾瀬学校について⑥		花プロジェクト⑥⑩、尾瀬学校⑥、芸術の日⑩、スキー教室①	尾瀬を知らう⑤～⑦ 花プロジェクト⑥～⑩	流水と私たちの暮らし⑩
3-(3) 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び	二度と通らない旅人②	私の悩みとその解決⑩		マラソン大会⑥、二者面談⑩、全校集会(通年)		にじの見える橋④
4-(1) 法やきまりの遵守、権利と義務、社会の秩序と規律	オーストリアのマスIII⑥ 使っても大丈夫?⑩	私の進路/希望する職業について⑨⑩		学校オリエンテーション④、交通安全教室④、尾瀬学校⑥、情報モラル教室②		
4-(2) 公德心、社会連帯、よりよい社会の実現	富士山を汚すのはだれか⑤ 島耕作～ある朝の出来事⑩(あかつき)	ボランティア活動の意義⑩	JRC登録⑤	尾瀬学校⑥、スキー教室①、情報モラル教室②、さわやかあいさつ運動(通年)	尾瀬を知らう⑤～⑦	
4-(3) 正義、公正・公平、差別や偏見のない社会の実現	私もいじめた一人なのに…①(あかつき)	認知症について知ろう⑦ 少年の主張学級予選⑦ 差別について⑩	生徒会交流会⑥、生徒会廃品回収⑧、生徒会集会(通年)、生徒会月例委員会(通年)	認知症サポーター養成講座⑤、少年の主張校内大会⑦、人権週間⑩		友達をみんなに紹介しよう④
4-(4) 集団生活の向上、役割と責任	できること、できないこと、そして接し方⑦(日本文芸出版2年) 学級旗作り④後期の組織づくり⑨ むかて競走⑩	学級の目標を決めよう④学級組織編成④⑧ 学級旗作り④後期の組織づくり⑨ 1年の反省と進級への心構え③	生徒会オリエンテーション④、壮行会④⑦⑨、生徒会集会(通年)、生徒会月例委員会(通年)	学校オリエンテーション④、尾瀬学校⑥、地震避難訓練⑥、学校保健委員会⑦⑩、大掃除⑦⑧⑩①③、始業式終業式④⑦⑧⑩①、体育大会⑧、校内文化祭⑩、防災訓練⑩、修了式③、全校集会(通年)、音楽集会(通年)	江戸からのメッセージ⑦	
4-(5) 勤労の尊さ、奉仕、公共の福祉	役に立つことができるかな②	私の進路/希望する職業について⑨⑩ ボランティア活動の意義⑩	生徒会廃品回収⑧、生徒会集会(通年)、生徒会月例委員会(通年)	花プロジェクト⑥⑩、PTA親子美化作業⑥⑧、大掃除⑦⑧⑩①③	職業調べ⑩～③	
4-(6) 家族愛	家族と支え合う中で③	認知症について知ろう⑦		入学式④、認知症サポーター養成講座⑤、卒業式③		
4-(7) 愛校心	ミソアジの学校⑤	文化祭に向けて⑩	生徒総会⑤、生徒会本部役員選挙⑨、3年生を送る会③	入学式④、学校オリエンテーション④、PTA親子美化作業⑥⑧、校内文化祭⑩、卒業式③、音楽集会(通年)		
4-(8) 郷土愛	篠崎街道⑩		生徒会廃品回収⑧	尾瀬学校⑥、芸術の日⑩	尾瀬を知らう⑤～⑦	
4-(9) 日本人としての自覚、文化の継承と創造	さよなら、ホストファミリー④	文化祭に向けて⑩		芸術の日⑩、校内文化祭⑩、書初め展①、美術作品回覧展②、音楽集会(通年)		江戸からのメッセージ⑦ いろは歌⑩ 七夕に思う⑩ 蓬萊の玉の枝⑩ 漢字の成り立ち②
4-(10) 国際理解、人間愛	違いを乗り越えて⑨ 海と空—樫野の人々—③(文部科学省)		JRC登録⑤	英語暗唱弁論大会⑨、人権週間⑩		雪とバイナッブル⑦ 今に生きる言葉⑩

※()内は出典。表示のない資料は日本文芸出版による。

1学年の 重点指導 内容項目	1-(3)	自主・自律・誠実・責任	3-(1)	生命尊重
	1-(5)	向上心・個性の伸長	4-(4)	役割と責任の自覚・集団生活の向
	2-(2)	人間愛・思いやりの心		

高山村立高山中学校 1年

各教科								地域・家庭との連携	内容項目
社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術(・)家庭(○)	英語		
					体づくり運動④ 心身の機能の発達と心の健康⑥	・生活に役立つ製作品を作ろう『木工作品の設計と製作』⑨～⑫ ○日常着の着脱と手入れ⑤ ○健康と食生活⑩ ○調理実習⑪～⑬	Unit 1「ようこそ、日本の学校へ」⑤ Unit 8「ナンシーに会いに」⑪ Multi+2「一日の生活」① Speaking+4「保健室での会話」③	さわやかあいさつ運動(通年) 学校保健委員会⑦⑪	1-(1) 望ましい生活習慣、健康、節度
	方程式⑦⑨				陸上競技⑤ 器械運動①	・生活に役立つ製作品を作ろう『木工作品の設計と製作(製作)』⑨～⑫		マラソン大会⑥	1-(2) 希望、勇気、強い意志
		探究活動(通年)		美術ってなんだろう④		・生活に役立つ製作品を作ろう『木工作品の設計と製作』⑨～⑫ ○食品の選択と保存② ○調理実習⑪～⑬			1-(3) 自主・自律、誠実、責任
	正負の数④ 文字を使った式⑥	光の世界⑪ 音の世界⑪ いろいろな力の世界⑫ 探究活動(通年)				・生活に役立つ製作品を作ろう『木工作品の設計と製作(設計)』⑨～⑫ ・自己紹介文の制作『情報モラルと知的財産』⑪「情報セキュリティ」④⑤			1-(4) 真摯愛、理想の実現
絵巻物の見方⑨	平面図形(しきつめ模様)⑪ 応用問題への挑戦(通年)	基礎操作の習熟(通年) 問題演習(通年)	「マイパレード」⑨ 自由曲⑩	その人らしさを伝える⑥⑦	ダンス⑨ 心身の機能の発達と心の健康①	・生活に役立つ製作品を作ろう『木工作品の設計と製作(設計)』⑨～⑫ ・自己紹介文の制作『情報モラルと知的財産』⑪「情報セキュリティ」④⑤ ○布を用いた物の製作⑦～⑨ ○調理実習⑪～⑬	暗唱活動(通年) Unit 4「楽しい昼休み」⑦	マラソン大会⑥	1-(5) 向上心・個性の伸長
					武道⑪		Warm-up④	さわやかあいさつ運動(通年)	2-(1) 礼儀
聖徳太子の政治改革⑤		基礎操作の習熟(通年) 問題演習(通年) 実験観察活動(通年)		その人らしさを伝える⑥⑦		○家庭と地域④	Unit 2「みんなの友達」⑥ Unit 8「ナンシーに会いに」⑪ Speaking+2「道案内」⑫ Unit 10「観光地から」①		2-(2) 人間愛、思いやり
							Writing+2「グリーティングカード」⑫	村民運動会⑩	2-(3) 信頼・友情
			「マイパレード」⑨ 自由曲⑩		心身の機能の発達と心の健康①				2-(4) 男女の敬愛
多民族多文化社会(北アメリカ)⑪	正負の数④					・自己紹介文の制作『情報モラルと知的財産』⑪「情報セキュリティ」④⑤ ○わたしたちと家族④ ○家庭と地域④			2-(5) 自他の尊重、謙虚、寛容の心
						・生活に役立つ製作品を作ろう『木工作品の設計と製作(材料)』⑨～⑫		商品回収⑧ PTA親子美化作業⑥⑧	2-(6) 感謝
防人の歌⑥		花のつくりとはたらき④ 植物の分類⑥		形まるごと感じてみよう⑩⑪		○わたしの成長と家族④		ハンジュー補え⑪	3-(1) 生命尊重
地球環境問題(ヨーロッパ)⑩ 開発の進展と環境問題(南アメリカ)⑪		身近な生物を観察しよう④⑧⑩⑪ 火をふく大地① 動き続ける大地② 大地の変化を読みとる②③		自然を描こう⑨⑩ 自然と向き合う日本の美⑨		・生活に役立つ製作品を作ろう『社会と環境とのかわり』③	Unit 10「観光地から」①	芸術の日⑩ ハンジュー補え⑪	3-(2) 自然愛、畏敬の念
									3-(3) 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び
	文字を使った式⑥ 方程式⑦⑨ 比例と反比例(関数の意味)⑨			ポスター⑦⑧		・自己紹介文の制作『情報モラルと知的財産』⑪「情報セキュリティ」④⑤ ○食品の選択と保存②	Unit 9「ケーブルカーに乗って」⑫ Listening+4「電車のトラブル発生」⑫	交通安全教室④	4-(1) 法やきまりの遵守、権利と義務、社会の秩序と規律
		身のまわりの物質とその性質⑦		ポスター⑦⑧		・生活に役立つ製作品を作ろう『材料加工を利用しフォトスタンドを製作しよう』⑥⑦		商品回収⑧	4-(2) 公德心、社会連帯、よりよい社会の実現
河原者たちの優れた技術⑫		実験観察活動における役割分担・協力(通年)				○家庭と地域④		社会を明るくする運動⑦	4-(3) 正義、公正・公平、差別や偏見のない社会の実現
鑑真和尚の来日⑥	資料の整理②	実験観察活動における役割分担・協力(通年)	「マイパレード」⑨ リズムあそび⑨ 自由曲⑩	自然を描こう⑨⑩ 自然と人と⑨ 自然と向き合う日本の美⑨	球技⑨～⑪⑫③	○布を用いた物の製作⑦～⑨ ○調理実習⑪～⑬		村民運動会⑪	4-(4) 集団生活の向上、役割と責任
						・生活に役立つ製作品を作ろう『木工作品の設計と製作』⑨～⑫ ○布を用いた物の製作⑦～⑨ ○調理実習⑪～⑬	Unit 9「ケーブルカーに乗って」⑫	商品回収⑧ PTA親子美化作業⑥⑧	4-(5) 勤労の尊さ、奉仕、公共の福祉
						○わたしの成長と家族④	Unit 6「ベッキーのおばあちゃん」⑨ Writing+1「学校のホームページ」⑩	村民運動会⑩ PTA親子美化作業⑥⑧	4-(6) 家族愛
			校歌④	自然を描こう⑨⑩				商品回収⑧ PTA親子美化作業⑥⑧	4-(7) 愛校心
			「ふるさと」⑨	自然を描こう⑨⑩		○郷土料理②		村文化祭⑪	4-(8) 郷土愛
日本の世界遺産④ 飛鳥文化⑤ 天平文化⑥ 鎌倉時代の文化と宗教⑫ 室町文化とその広がりの⑪ 桃山文化①			箏曲「六段の調べ」①	自然を描こう⑨⑩ 風神雷神 自然と人と⑨ 自然と向き合う日本の美⑨		・生活に役立つ製作品を作ろう『材料加工を利用しフォトスタンドを製作しよう』⑥⑦ ・ガイダンス「製作品の工夫と技術の進歩」④ ○郷土料理②	Unit 5「お祭り大好き」⑨ Writing+2「グリーティングカード」⑪ Unit 11「一年の思い出」②	書初め①	4-(9) 日本人としての自覚、文化の継承と創造
資源によるアジアとのつながり(オセアニア)⑪ アフリカの産業と新たな開発⑫ アフリカの課題と展望⑫							Unit 4「楽しい昼休み」⑦ Unit 6「ベッキーのおばあちゃん」⑨ Unit 7「サンフランシスコの学校」⑩ Unit 9「ケーブルカーに乗って」⑫ Unit 10「観光地から」① Writing+3「絵はがき」③ Let's Read「Over the Horizon」③		4-(10) 国際理解、人間愛

平成26年度 道徳教育の全体計画別葉① 学校・生徒会行事と内容項目との関連表

		1					2					3			4										
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
		望ましい生活習慣	希望・勇気、強い意志	自主・自律、誠実・責任	真理愛、理想の実現	向上心、個性の伸長	礼儀	人間愛・思いやり	信頼・友情	男女の敬愛	寛容の心、謙虚	感謝	生命尊重	自然愛、畏敬の念	気高さ、生きる喜び	社会の秩序と規律	公徳心、よりよい社会	正義、公正・公平	集団生活の向上	勤労、公共の福祉	家族愛	愛校心	郷土愛	愛国心	国際理解、人類愛
入学式	4月		○																	○	○				
生徒会オリエンテーション	4月		○	○															○						
学校オリエンテーション	4月	○													○			○			○				
身体計測	4月	○																							
交通安全教室	4月														○										
退任式	4月						○				○														
春季大会壮行会	4月		○															○							
高原学校(2年)	5月			○			○						○					○							
花壇整備作業	5月												○						○						
生徒総会	5月			○																	○				
JRC登録式	5月															○								○	
認知症サポーター養成講座(1年)	5月						○										○			○					
修学旅行(3年)	6月	○						○		○	○					○		○				○	○		
マラソン大会	6月					○								○											
生徒会交流会	6月							○	○								○								
花プロジェクト	6月										○	○							○						
尾瀬学校(1年)	6月											○	○		○	○		○							
PTA親子美化作業	6月																		○		○				
地震避難訓練	6月											○						○							
総体壮行会	7月		○															○							
学校保健委員会	7月	○		○														○							
少年の主張校内大会	7月				○												○								
大掃除	7月																	○	○						
一学期終業式	7月	○																○							
二学期始業式	8月	○																○							
大掃除	8月																	○	○						
生徒会廃品回収	8月																○		○			○			
PTA親子美化作業	8月																		○		○				
体育大会	8月					○												○							
生徒会本部役員選挙	9月			○																	○				
英語暗唱弁論大会	9月				○																				○
新人戦壮行会	9月		○															○							
職場体験(2年)	9月				○		○				○			○					○						
花プロジェクト(1年)	9月～												○						○						
芸術の日	10月					○							○										○	○	
校内文化祭	11月			○				○		○								○			○		○		
天文教室(3年)	11月												○												
三者面談・二者面談	11月	○				○								○											
学校保健委員会	12月	○		○														○							
人権週間	12月	○						○	○		○						○								○
防災訓練	12月											○						○							
大掃除	12月																	○	○						
二学期終業式	12月	○																○							
三学期始業式	1月	○																○							
大掃除	1月																	○	○						
書初め展	1月																						○		
スキー教室(1年)	1月					○	○						○			○									
美術作品回覧展	2月				○																		○		
不審者対応訓練	2月											○												○	
情報モラル教室	2月														○	○									
バイキング給食(3年)	3月						○				○														
3年生を送る会	3月										○											○			
卒業式	3月		○							○	○									○	○				
大掃除(1・2年)	3月																	○	○						
修了式(1・2年)	3月	○																○							
イブジョッグ	前期	○																							
さわやかあいさつ運動	通年						○									○									
全校集会	通年	○				○		○						○				○							
音楽集会	通年																	○			○		○		
生徒会集会	通年																○	○	○						
生徒会月例委員会	通年			○													○	○	○						
クリーンアップ検査	通年	○																							

